

もっといい明日が見えてくる - Letters from Gnable

# Gnable

グノレット

# G-let

保存版  
vol.30

2025年7月発行

東大  
難関大・医学部

合格特集号

中学受験グノーブル卒生  
インタビュー併載



グノーブルを活かし、最大の効果を上げるヒント満載。  
19期生の合格者インタビュー特集。

# CONTENTS

## 19 期生 合格者インタビュー

PART 1 ..... P. 1- 6

PART 2 ..... P. 7-11

PART 3 ..... P.12-19

PART 4 ..... P.20-27

PART 5 ..... P.28-32

PART 6 ..... P.33-38

PART 7 ..... P.39-46

2025 年東京大学・難関大学・医学部合格者インタビューをお届けします。

膨大な情報量になっていますが、グノーブルを活かして最大の効果を上げるためのヒントがぎっしり詰まっていると思います。

これから大学受験をされる皆さんには、マーカー類を片手に、気になる発言や参考になりそうな箇所に印をつけながら全編に目を通すことをおすすめします。

勉強を進めていく時に大切なことは、先輩の体験や先生の助言を参考にしながら、徐々に自分に合った勉強法を確立していくことです。

このグノレットの中に、お手本にできることがあれば、ぜひお試しください。

また、勉強に行き詰まったり、気持ちが折れそうになったり、迷いが生じることもあるでしょう。

そんな時には、改めてこのグノレットを開いて先輩たちの声に耳を傾けてみてください。きっと勇気をもたらえると思います。

### 座談会出席者

マークは中学受験グノーブル卒生

#### PART 1

ひらき こう  
平木 航さん(京都大法・海城)  
まきの ななみ  
牧野 菜奈美さん(京都大医・ドルトン東京学園)

わし お あすか  
鷺尾 明香さん(横浜市立大医・都立富士)  
さとうしょうたろう  
佐藤 正太郎さん(千葉大医・世田谷学園)



#### PART 2

おがわたくま  
小川 拓真さん(東大文Ⅲ・麻布)  
ほうだくろうが  
保田 空駕さん(東大文Ⅱ・麻布)

つちや はやと  
土屋 勇人さん(東大理Ⅰ・筑波大附属駒場)

#### PART 3

たかはしりょうた  
高橋 遼太さん(東大文Ⅱ・麻布)  
すずき ななみ  
鈴木 七海さん(東大理Ⅰ・女子学院)

ほそだしょうま  
細田 匠真さん(東大理Ⅰ・開成)  
いじまみのる  
飯島 稜さん(東京科学大工・海城)

あおやぎさとし  
青柳 聡さん(東京科学大 理・攻玉社)

しばた こうたろう  
柴田 琥太郎さん(東大理Ⅱ・駒場東邦)



#### PART 4

うえた ともよし  
上田 知祥さん(東大理Ⅱ・栄光学園)

おおこし みお  
大越 美緒さん(東大文Ⅰ・フェリス女学院)

ありが りょうへい  
有賀 稜平さん(東京科学大 医・栄光学園)

すが あかり  
須賀 愛佳里さん(東大文Ⅰ・白百合学園)

みやざと さつき  
宮里 早月さん(東大文Ⅱ・女子学院)

#### PART 5

はまだりりか  
濱田 莉々果さん(東大文Ⅰ・日比谷)

いちげ しんたろう  
市毛 慎太郎さん(東大理Ⅰ・開成)

きむらはるか  
木村 陽香さん(東大文Ⅰ・日比谷)



#### PART 6

たつみしょうた  
辰己 翔太さん(東大理Ⅰ・駒場東邦)

ふじわら けいすけ  
藤原 圭佑さん(東大理Ⅰ・麻布)

ひろせ  
広瀬 けやきさん(慶應義塾大文・頌栄女子学院)

おがわ そうすけ  
小川 蒼介さん(順天堂大 医・世田谷学園)

#### PART 7

おおしま しんたろう  
大島 信太郎さん(信州大 医・ID学園)

かな や ゆうき  
金谷 侑樹さん(横浜市立大 医・栄光学園)

わかばやし かずき  
若林 一樹さん(東大文Ⅰ・成城)

くろだ みお  
黒田 美桜さん(東京科学大 医・田園調布雙葉)

ほりこし ゆづき  
堀越 結月さん(東大文Ⅰ・豊島岡女子学園)





(左から)  
ひらき こう  
平木 航さん(京都大法・海城)  
わしお あすか  
鷺尾 明香さん(横浜市立大医・都立富士)  
まきの ななみ  
牧野 菜奈美さん(京都大医・ドルトン東京学園)  
さとうしょうたろう  
佐藤 正太郎さん(千葉大医・世田谷学園)

本文中敬称略

### 「進む道」を決めた

**鷺尾：**私が「医学部を目指したい」と思ったきっかけは、祖母がある病を患っていたことです。小学生の時に、それが現在の医療では治らない病気だと聞きすごく衝撃を受けました。そこから私は、「慢性疾患を抱える患者さんを支える医師になりたい」と思うようになりました。

高3の科目選択の時点では、他の理系の学部も考えましたが、「やっぱり人の健康を支える職業に就きたい」と思い、医師を目指すことを決めました。今のところは「研究職よりも、患者さんと向きあえる臨床医になりたい」と考えています。

**牧野：**私はまず大学に惹かれました。京都大学はとても自由な校風で、また、歴史的な建造物や、自然に囲まれた暮らしにも魅力を感じました。

医学部を目指したのは、中学2年生と高校2年生の時に病気にかかって手術を経験したからです。この時に受けた精神的ショックから、「同じような境遇の人たちの役に立てたら」と思うよ

うになりました。

**平木：**僕が法学部を志望したのは、法律系の仕事をしている両親の影響です。もともと数学が苦手、逆に国語は好きで得意だったので、言葉を扱いつつながら世の中に貢献する仕事を目指したいという思いもありました。

法曹業界にはいろいろ魅力的な仕事もあり、将来のことは、まだはっきり決めていません。周りの人からは「弁護士に向いているんじゃない?」と言われることもあるので、それも視野に入れつつ、大学で勉強していく中で決めていくつもりです。

**佐藤：**医学部を目指すようになったのは、進路を考え始めた高1の時期でした。もともと理系に進むことは決めていて、建築にも興味がありました。でも自分の性格や資質を考えた時に医学のほうが合っていると思い、進路を決めました。

父親や親戚など、身近に医師も多く、全員が本当にストイックに医療のために身を削っている姿を見て、「カッコいいな」と思っていたのもあります。

### グノーブルとの出会い

**佐藤：**僕は中学受験の頃、成績が良くて小5から小6まで、母の勧めで「グノリンク」に通っていました。

大学受験グノーブルに通うことになったのは、中3の時です。先にグノに行っていた兄から「グノの英語はものすごくいいから、おまえも入れ」と強く勧められ、中3から英語、高1の9月からは数学を受講し始めました。



ひらき こう  
平木 航さん  
京都大法・海城

**平木：**僕はもともと英会話の塾には通っていて、高2になって本格的に受験に向けた塾を探し始めました。

そんな時に友達から「グノーブルは少人数の授業で手厚く見てくれる」と聞き、高2から英語、高3の9月からは国語も取りました。

**牧野：**私は中学受験が終わったタイミングで、大学受験のための塾を探し始めていた母親に勧められました。他の塾も含めていくつか体験授業を受けてみたのですが、一番堅苦しさがなくて、生徒と先生の距離が近いと感じたグノに決めました。中学1年から英語と数学、高校1年の1年間で古文を受講しました。

**鷺尾：**私は中学1年の夏から英語で入りました。なかなか英語力が伸びずに悩んでいた時に、母が他の学校の友達から、グノの英語の評判を聞いて勧めてくれたのがきっかけです。

私はあまり他の塾との比較はせず、「グノで頑張ろう」と思っていました。数学はもともと個人塾に通っていましたが、「大学受験を本気でやりたいな

ら、集団塾に行ったほうがいいよ」と言われました。私は部活が忙しすぎて、いろいろな塾と比較検討する時間がなく、『Gno-let』などを読むと数学も評判なのがあったので、「まず入ってみよう」ということで、高校1年から数学も受けるようになりました。

**牧野：**私はスタートダッシュ講座\*でグノに入りました。きっかけは、中学生の数学を担当されていた先生がすごく優しくくださったからです。一方的に教えるのではなく、生徒一人ひとりに向けて話す感じが「とてもいいな」と思いました。

**平木：**高2以前に通っていた英会話の塾は、文法や和訳よりも、話せるようになることに重点を置く授業でした。しっかりした受験対策のために、グノに入ることにしました。

他の塾の季節講習などにも通っていましたが、大きな教室で50～60人の生徒対1人の先生なので、先生との距離も遠くて質問しづらい雰囲気でした。それに比べてグノは、授業中にも一人ひとり見てもらえるし、直接メールで先生とやりとりすることもできます。こういうところが「やっぱりグノで良かったな」と感じました。

**佐藤：**僕は中学受験の時に通っていた塾であまりにも成績が悪く、塾の先生にかなり威圧的に怒られたことが、トラウマになっていました。だから、グノを周囲から勧められた時も、そもそも塾に全然行きたくなくて、他の塾と比較することすら面倒に感じていました。でも、グノの春期講習に行ったら、嫌な印象を受けることもなくてそのまま通塾を決めました。

### グノーブルの英語

**佐藤：**高1の頃から段々グノが楽しくなり始めました。ある時、ふと「先生方は、何年もかけて学んできたことを、惜しみなく自分たちに教えてくれ

ているんだ」と気づいたことがきっかけです。先生方へありがたみを感じるようになって、それからは「先生の言っていることを、できるだけ多く吸収するぞ」という気持ちで授業を受けましたし、ノートを取るにしても復習するにしても、モチベーションが上がりました。

**平木：**僕は高2まではずっとサボっていたのですが、高3になると、読解の授業で要約の点数を友達と競い合い、「もっと高い点を取りたい」という気持ちがモチベーションになっていました。「何クソ」と思ったこともありませんし、自分の課題が見つかることもありました。黒板に点数分布を書かれる時、自分の点数が一番低いところがあると落ち込みました。逆に、高いところがあると、心が軽くなって授業中もよく発言できました。次の週の宿題を終わらせて、「満点を取るぞ」と考えながら、毎回楽しく塾に通っていました。

他塾でも演習はしますが、提出から返却まで時間がかかることが多いです。添削しているのも、多分講師ではなくその係の方かもしれません。グノは先生が添削して、コメントを付けてくださることも多くて、「先生がよく見てくれているんだな」というのを強く感じていました。

**牧野：**私も「英語に本気で力を入れよう」と思ったのは高3の時です。高2までは、宿題をとにかくこなそうとして適当になってしまうところもありましたが、「グノで良い点数を取りたい」という気持ちが出てきてからは、文章を丁寧に正確に読む意識や、習慣が身につきました。

授業の内容もすごく濃くて、充実していましたが、振り返るのは大変でした。授業中に行う演習時間はとても短いので、先生の解説が始まるまでに解き終わるよう頑張って英文を読みました。当てられた時に間違えたり、低い点数を取ったりすることもたくさんあ

りました。でも、そういう経験をバネに「頑張ろう」と思って取り組みましたし、先生たちが、私たちを応援してくださっているのは、いつも感じていました。

**鷺尾：**高2までは部活との両立が大変でした。高3になってからは、「もっとちゃんと授業内容を吸収するように心がけよう」と気持ちが前向きになりました。添削の点数が悪く、落ち込んで泣きそうになったこともあります。でも、先生から「できていないところこそが成長につながる」と言われていましたし、「どう改善したらいいか?」はあとから考えるようにして、まずは授業の演習に集中して取り組むようにしました。

グノで英語を学び始めた当初は、これまでに受けてきた英語の授業とかなり違っていたので困惑しました。授業の密度が濃くて、復習も大変でした。

でも、語源帳を作ってみるなど、先生の教えてくださった通りにやってみたら、いつの間にか英語の語順のまま読めるようになっていました。日本語の構造に合わせて英文を読むのではなく、ネイティブと同じような感覚で理解するには、単語帳で覚えるより、語源から英単語を理解することが重要なのだと、今では確信を持って言えます。高3の秋頃には、模試の成績が安定してきました。学校の先生からも、「春頃と比べてすごくできるようになっているよ」と言っただき、自分でも気



まきの ななみ  
牧野 菜奈美さん  
京都大医・ドルトン東京学園

\* スタートダッシュ講座：新中1対象の講座（2～3月に開講）。

づかないうちに伸びていたようです。「このままグノと自分を信じて頑張っていけば、もっと英語が読めるようになる」と思えるようになりました。

**牧野：**私も、語源から英単語を覚えるということに、最初は少し戸惑いました。でも、まずは実践!と続けてみたら、高3の夏頃には、単語の意味をイメージで捉えられるようになっていました。すると、英文を読んでいる時にも、ネイティブのように語順通りに意味が理解できるようになりました。

**平木：**「単語帳を使わない」というのは特徴的だと思います。このことを春期講習で初めて聞いた時は、「そんなわけないだろ?」と、信じられない気持ちでした。もともと英語の成績が特に悪いわけでもなく、学校では日常的に単語テストがあったので、しばらくは今までどおり単語帳をやり続けました。

でも7月頃から、「せっかくグノに通っているんだったら、グノ式でやろう」と思い直しました。語源から覚えると、音読の時も自然な解釈ができ、夏休みが終わる頃には、前より英語ができるようになってきたのを実感しました。

単語帳が絶対にダメだというわけではないです。でも「もっと高いところを目指してみよう」と思った時、やはり限界に気づきました。特に、出題頻度に合わせた単語帳だと、それぞれの意味とは全然関係ない順番で単語が並んでいて、1対1で記号のように覚えて

いくことになり、柔軟性がありません。**佐藤：**授業中、英語をそのままの順番で読んでいく練習をしたことで、読むスピードがすごく上がりました。今までのように「この関係詞はここにかかっているから、こっちを先に訳して、そのあとこれをつけて」みたいな作業をしながら、前に戻って読み直すこともなくなりました。

高3の初めに先生が「単語帳は要らない」と力説していた時は半信半疑でしたが、「こんなにオススメされるなら、1年間は信じてみよう」と思いました。実際に続けてみたら、知らない単語を見ても字面でイメージが湧くようになり、英文を読む上でアドバンテージになりました。単語帳を使わなかったことを今は全く後悔していません。

### 音読の底力

**鷲尾：**グノの音読で扱う文章は、必ずしも身近なテーマのものではなく、日本語でも自力で完全に理解し切れないこともあります。

だから授業を聞いて、筆者が言いたいことをしっかり理解してから、今度は自分が誰かに内容を伝えるつもりで音読するのが一番効果的だと思います。黙読だと、目が滑っていることに気づけないので、音読よりも効果は落ちてしまいます。

**牧野：**私も音読にはとても力を入れていて、学校への行き帰りの20～30分は絶対に音読していました。黙読と違って音読は、理解できていないところがあると、そこで絶対に発音が止まってしまいます。自分が分かっていない部分に気づき、丁寧に読み直せるのが音読の良いところです。音読で毎日目にする単語は、それをどういうふうに教わったかの記憶までセットで定着しました。

**平木：**音読は、あまり「勉強している」と意識せずに取り組めるのが良いところですが、例えば数学で頭が疲れ



た時などにやるのがいいと思います。ベッドに寝ころんだ状態でもできるので、楽しみながら英語を学べます。授業中も、先生が音読しながら解説するので、自分で音読する時も、先生の言っていた具体例などを思い出し、文章の中身を理解できるようになりました。

先生との距離が近いので、「集中して授業を聞こう」と意識しなくても、話す内容が自然と頭に入ってくるが多かったです。先生の話は、迫力があってイメージも残りやすく、1週間たってもちゃんと授業の内容を覚えていられました。

**佐藤：**音読を真面目に始めたのは、新高3の授業が始まってからです。毎日欠かさず、最低15分はやりました。ただ音読するのではなく、意味を意識しながら英語を口に出して読むと、少しずつ、「今、自分は英語を読んだだけなのに、意味を理解できている」と思う瞬間が多くなりました。読解の時も「英語の文章を読んでいると、頭の中でその文章の意味が再生されるようになるよ」と、先生が言っていた通りになりました。

### 「知」が凝縮された英語教材

**佐藤：**毎回全然違う内容の、バラエティーに富んだ教材で、飽きることなく面白かったです。医療や教育、人間など、いろいろなテーマを扱うので、幅広い分野の知識が身につきました。次に同じようなテーマの文章に接した時にも理解しやすくなり、読解力をつける上でとてもすぐ有利になりました。

**平木：**日本語でも読んでみたい文章が多くて、毎回面白いと思っていました。時には、文章に先生からのメッセージが込められていると感じるものもありました。

**牧野：**教材が一冊の教科書ではなく、プリントで毎週渡されることに毎回ワクワクしていました。家族との話題になるようなテーマもありました。

私は医学部受験に向けて本腰を入れたのが高3でしたが、その前からグノで医療がテーマの文章を読ませてもらっていたので、進路を決める上でもイメージが膨らみとても助かりました。

**鷲尾：**普段からグノの教材で、いろいろなテーマの文章を読んでいたため、入試でどんなテーマが出て「えっ?」と思うことがなくなります。認知科学の最前線の話もグノの英語教材で扱われました。「入試当日にどうやって実力を発揮するか?」という内容の文章です。この時に先生がおっしゃっていたことを実践したら、落ち着いて試験に臨めました。「あの文章を読んでいた、良かった!」と思いました。

### 「グノーブルの英語」で変化したこと

**鷲尾：**「英語力がすごく伸びたな」という瞬間が2回ありました。1回目は、上位クラスに上がった時です。グノに入った当初は、下から2番目のクラスでしたが、楽しみながら授業を受けて、「お帰り問題」に何回も取り組むうちに、英語の音を聞く習慣ができました。そして、気づいたらすごく成績が伸びて一気にクラスが上がり、そのあ



とはクラスが下がることはありませんでした。

2回目は、高3で英語の新しい読み方を学んだ時です。それまでは日本人として英語を分析して読んでいたのが、語順のまま前から読んで理解することができるようになりました。

**牧野：**私は高3で英語に本気で向き合うまで、英語を大学受験突破の道具としか思っていませんでした。グノの授業で英語の言語文化を知り、ネイティブスピーカーの頭の中を覗き見るような感覚で英語と触れ合えたことで、「文章を読んだり、人と話したりするために、英語を学んでいる」と意識できるようになりました。

**平木：**僕もグノに入るまで、英語は点を取るための科目でしかありませんでした。授業でいろいろなテーマの文章を読み、実力がつくにつれてどんどん楽しくなって行って、自分から英文に触れるようになりました。

例えば、博物館に行った時、英語で書かれている説明を読んだり、「英語の本を読んでみようかな?」と思ったり。そして読んでみると、グノで詳しくやった単語が出てきて内容も理解できました。授業外で楽しく英語に触れるきっかけを与えてくれたのもグノです。

**佐藤：**以前は本当に英語力が低くて、文法って何?というくらいでした。グノに通い始めてからは、今まで知らなかったテーマの英文にたくさん出会い、「英語を読むのが楽しい」と感じるまでになりました。

### グノーブルの数学

**佐藤：**グノの数学で良かったところの1つ目は、先生が演習中に一人ひとりの様子を見てくれることです。テスト演習でもそれぞれの答案に合わせた解説をしてくれます。

2つ目は、宿題が予習より復習メインだったことです。これは時間がない中で、助かりました。復習では、授業

でやった解法を使って他の問題を解くこともできました。

3つ目は、ひらめきに頼らない解法を教えてくれるところです。僕はもともと数学がすごく弱かったので、問題集の解答を見ても、「この1手目をどうやったら打てるんだ?」と、本当に納得いかないことが多かったです。グノでは、今まで学んだことを使った解き方を論理的に教えてくれたので、理解することも定着もしやすかったです。

**平木：**直前の季節講習で文系の数学を受講しました。一番良かったのは、問題のチョイスが本当に最高だったことです。文系の数学は理系よりも範囲が狭くて、パターン問題を2つ3つ組み合わせるタイプの問題など、頻出の部分を漏れなく、網羅的にやっていただきました。

「時間をかけたら解けるけど、時間内だとうかな?」というレベルの問題を、テスト形式という、緊張感のある中で解きました。問題集に載っているような有名な入試問題ではなく、初めて見る問題を通して、発想力や計算力を試すことができたおかげで、本番の点につながったと感じます。

**牧野：**私も、問題のチョイスがすごく素晴らしいと思いました。一つひとつの問題にメッセージ性があり、どの問題もちゃんと数学の本質につながっていて、その解き方が体系的にまとめられています。一つずつ武器を与えてもらうような感覚ですごく良かったです。

例えば、体積を求める時も、「こういう時はxで切る」といった知識が表やベン図を使ってまとめられていて、それが問題ごとにちゃんと違う解法に

つなげていけるようになっていました。**鷲尾：**グノーブルの数学は、一つひとつの問題に対する解法をただ教えるのではなく、「これが要求されている時は、これをやる」など、体系的な思考法をしっかりと教えてくれるので、応用力もついたし、解説を読んでいて「突



鷲尾 明香さん  
横浜市立大 医・都立富士



### 後輩へ伝えたいこと

**鷲尾**：先生が熱を持って一人ひとりをきちんと見て授業して下さるので、先生を信じて、グノの教え方に沿って、「何が自分の成長につながるのか？」を考えながら勉強していけば、きっと成績がグッと上がると思います。頑張ってください。

**牧野**：グノの授業はそれ自体がとても素晴らしいのですが、そのあとの復習が私は一番大切だと伝えたいです。

私は、英語の音読をしながら、授業中に言われたことを一つひとつ思い出しました。

数学でも、セルフチェックシートなどで自分の間違えたところや授業内で学んだことを復習する機会が設けられています。

「復習が自分の実力を上げた」と言えるくらい本当に価値があることなので、後輩の皆さんにも復習を頑張ってもらいたいです。

**平木**：先生には、どしどし質問のメールを送ったほうがいいです。臆さずどんどん質問してほしいです。それから、夏期講習などでは自習室がすぐいっぱいになるので、朝早くに行ったほうがいいです。

**佐藤**：自分が伝えたいのは「グノを信じ切ってやってほしい」ということです。例えば、自分は「音読をやろう」「数学の典型問題をインプットしよう」と、先生方から高3の間もすごく言われていました。後輩の皆さんには、グノを信じ切って全力でやってもらえればと思います。

わたらずぐ帰ってしまいました。

**平木**：先生の印象は2つあります。1つ目は、本当に明るいことです。ボンボン喋る先生はいません。

2つ目は、名前を覚えてくださることです。英語の先生は、最初の授業で生徒全員の名前を覚えてくれていました。僕も、初対面なのに「平木君」と呼ばれて、「え？」と驚きました。名前を呼ばれると、親近感も湧いて発言もしやすいですし、「先生に大事にもらえている」と感じました。

**牧野**：初回から膨大な内容だった英語の授業のことはとても印象に残っています。復習するのが本当に大変なほどでした。それほどたくさんいろいろなことを教えてくださる先生は、これまで他にいなかったの、すごく驚きました。

もう一人印象的だったのが数学の先生です。中学3年生の時、ある問題の解説に興味も湧いて質問に行きました。すると先生は、高校教材の資料を見せて「興味があるならこういう教材で勉強するのいいよ」と親身にアドバイスをしてくださりました。「グノは本当に生徒一人ひとりを見てくださっているな」と実感した出来事です。

**鷲尾**：もう1つグノで魅力的なのが、先生方がすごいパワーで授業を行っていて、熱意にあふれていることです。私も自然とそれに引き込まれますし、「こんな熱を持って支えてくださっているなら大丈夫だ」という安心感も生まれました。

塾の授業は学校と違って2時間連続でやることが多いので、ずっと神経を張り詰めているのは大変です。でも、グノの先生は「ここが大事だよ」「これは絶対に覚えてね」という感じで教えてくれるので、私も「ちゃんとメモしておこう」とか「復習の時は必ず思い出すようにしよう」と、主体的に学ぶようになりました。

ださるので、相談することですごく安心できました。

**牧野**：私はグノに通っていてモチベーションが下がることは特にありませんでした。英語も数学も点数が低ければ「もっと頑張らないといけない」と思い、高くても「サボったらすぐに落ちてしまう」という危機感を持って勉強を続けられました。でも、グノの環境だったから自分をコントロールできていたのだと思います。

**平木**：グノ生は本当に優秀なので、英語の要約や英作文の添削で自分の点数が低くても、「まあ大丈夫だろう」という安心感が逆にありました。もちろん、教室に早く来たり、先生に質問したり、モチベーションの高い人たちを見ると、「サボっているわけにはいかない」とも思いました。自分の中では、勉強をやる時とやらない時を明確に分けるのが、モチベーション維持に役立ちました。

**佐藤**：授業中先生に当てられたり、添削の点数分布が公開されたり、数学の場合は、テスト演習の上位ランキングの名前が出たりして、「周りに優秀な人がたくさんいるんだ」というのが実感しやすい環境でした。そういう人たちに「負けたくない」という思いもモチベーション維持につながりました。

モチベーションが低くなった時は、医療ドキュメンタリーなどを見ました。もともと医師のストイックさに憧れていたの、身を削って働く医師の姿を見て、「自分もこうなりたいんだ」と鼓舞しました。

### グノーブルの先生

**佐藤**：当たり前かもしれませんが教室に入った時や帰る時に、先生が必ず「こんにちは」「さようなら」と言ってくれるのはグノならではの気がします。いつも挨拶をしてくれるので、話しかけやすく、質問や相談もしやすかったです。自分が通っていた他塾の先生は、授業になったら教室に入ってきて、終

### グノーブルの小論文で成長

**鷲尾**：高3の夏期講習と直前講習で医療系小論文の授業を受けていました。最初からいきなり小論文を書かされたのには少し戸惑いましたが、とにかく添削がいつも丁寧で、細かいところまで見てくださったのが印象的でした。

先生は、できた時は褒めてくださるし、できていない時は「こういうふうにするのいいよ」と分かりやすく伝えてくださいます。少ない授業の中で着実に成長できるようにしてくださっているのが分かりました。受験直前までメールでたくさん添削をしていただきましたが、グノの添削は、返信が断然速くて（笑）役立ちました。

### いつも、そばに先生がいた

**鷲尾**：私は、何かにつまずいた時、親や先生にすぐ相談するほうです。結構長い間、グノの数学についていくのに苦労していた時期もありました。思い切って先生に相談してみると、「クラスの中では、ちゃんとできて、頑張っているほうだよ」と言ってくれたり、今後の授業計画を示しながら、「ここを頑張っていけば大丈夫」というふうに伝えてくださったので、最後まで諦めずに頑張り続けることができました。

私は少し自分に自信を持ってないところがあるので、他の人から具体的な評価をもらえると安心します。グノの先生は一人ひとりの生徒を丁寧に見てく



している」とか「この思考法は、意識していたつもりでもつい抜けてしまう」といった、自分の癖が見えてきて、ミスが減らせます。それを受験直前に見返し、「これとこれは気をつけよう」と意識して本番に臨めました。

### グノーブルの国語

**平木**：僕が取っていたのは難関国語です。二次試験に漢文を使う人はあまりいないと思いますが、僕も現代文と古文を受講していました。現代文は、授業内で演習した答案を、解説の前に全部添削して返してくれるシステムでした。いつも詳しく添削・採点してもらえて、本当にすぐ見直せるのが良かったです。学校でも添削はしてもらえましたが、返ってくるのが1週間後で、自分がどこに悩んだのか記憶が薄れた状態で復習することになります。それだと効果が低いと思います。

古文はレポートが多くあるわけではないので、「こういう話の時はこういう展開を予測して」というように、割とテクニック重視でした。文法事項など、本当に受験に必要なことがすべて詰まっている授業でした。市販の古文の単語帳にプラスアルファの単語を覚えていかないと、難関校では戦えません。そういうことも詳しく教えていただきました。

**牧野**：高1の時に古文を受けました。授業では、物語の長い一節を1週間ごとに区切って読み、物語自体を楽しむことができました。毎週コラムのようなプリントが配られて、古典知識や物語の面白さなどを先生が伝えてくださいます。昔の着物や牛車を紹介するイラストもあって、興味深かったです。

古文単語も、グノでは英語と同じように漢字の語源から覚えるスタイルだったので、とても覚えやすかったです。

飛でよく分からない」ということが減りました。

セルフチェックシート\*については当初、「どうして毎回やらなきゃいけないの？」と思った時もありました。でも、ただ問題を解いて終わりにするのではなく、「どうして解けなかったのか?」「自分の思考法には、何が抜けていたのか?」と、答案を客観的に分析することは、入試に向けて自分を高めていく中ですごく重要なことでした。セルフチェックシートを使い、強制的に自分と向き合うことで、段々とそのことが分かってきました。

**牧野**：私も「自分がどこで間違えたのか?」をメモするようにしていました。間違えた問題が段々と積み重なっていくことで自分の像が見えてきて、本番の入試も「自分はこういうところで間違いやすいから気をつけよう」と意識して取り組みました。

自分の間違いを振り返ることで、次に同じような問題に出合った時に「自分はここまでできるようになった」と実感できるので、書き残すことは大切だと思います。

**佐藤**：セルフチェックシートには、問題ごとに自分を分析する欄と、完全にフリーで書ける欄があって、僕もテスト演習でミスしたところをひたすら書き留めていました。書いた内容を次回のセルフチェックシートにも引き継いで、どんどんミスの記録を貯めていきました。

例えば、「この思考法が足りていなかった」と思ったら、まずそれをセルフチェックシートに書いて、さらに毎週配られるセルフチェックシートにもどんどん写して行って、最後のセルフチェックシートは「自分のミスがいっぱい書いてある」という状態にします。そうすると、「ずっと同じミスを繰り返

\*セルフチェックシート：高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。



(左から)

おがわたくま  
小川 拓真さん(東大文Ⅲ・麻布)つちやはやと  
土屋 勇人さん(東大理Ⅰ・筑波大附属駒場)ほうだくろうが  
保田 空駕さん(東大文Ⅱ・麻布)

本文中敬称略

## 「東大を目指す」ということ

小川：自分の学校では「東大を目指す」と公言している生徒も多かったこともあり、僕も迷うことなく東大を目指すことにしました。文科三類を志望したのは、法律や経済よりも文学や社会学に興味があったからです。

受験勉強を通じて英語がすごく得意で好きになったので、「将来的には海外で働きたい」と考えています。

土屋：同級生や先輩の多くが、東京大学に進学していました。自分も、進学先で得られる将来の選択肢の広さや現在の成績などを考えて、「東京大学に行こうかな?」とっていて、物化選択だったので理一を目指すことにしました。

将来は化学の研究をしたいと思っています。中高6年間の蓄積とこれから大学で学ぶことを合わせて、化学を自分の武器にしていきたいです。

保田：学校の友達がみんな東大を目指す中で、「友達と一緒に大学に行きたい」「負けたくない」と思うようになりました。志望校はあとから変えること

もできるし、「まずは東大を目指して頑張ってみよう」と思いました。

僕は世界史と英語がすごく好きで、世界史の中でも経済の歴史に興味があり、文二を選びました。将来の目標はまだ漠然としていますが、国際的に活躍できる人になりたいです。

## グノーブルとの出会い

保田：もともと他の塾で成績が伸び悩んでいた時期に、仲の良い友達がみんなグノに通っていて、「英語がすごくいい」という話を聞いていました。グノの数学に通う友達も、「先生方がすごく面白い」と言うので、高2の夏にグノに移りました。

どんなに素晴らしい塾でも、僕は友達がいなかったら、続けられなかったかもしれません。そういう自分の弱みもあったので、友達がいて、通いやすく、楽しめるグノに決めました。

土屋：入塾したのは中学1年生の早い時期です。親から「英語は遅れたらついて行きづらい」と聞いていたので、僕も英語の塾に通うつもりでした。3歳上の姉が、グノの英語を受けていて「そんなにきつくないけれど、本質的なことを深く学べる」と話していたので、グノーブルに決めました。

今振り返ると、単なる受験対策にとどまらず、「将来に生きる英語力」を育ててもらえたと感じています。

小川：高校1年生の時に他塾に通っていて、そこでは友達があまりいませんでした。授業もグノみたいに生徒が指されて答えるのではなく、先生が話を

つちやはやと  
土屋 勇人さん  
東大理Ⅰ・筑波大附属駒場

するだけの一方型でした。僕はすぐに挫折して、3か月でやめました。

しばらくは塾に通っていませんでしたが、高校2年生の1学期に学校の実力試験ですごく悪い成績を取ってしまい、夏期講習が受けられる塾を探そうにしました。ハンドボール部の友達から「グノだったら、宿題はそこまで多くないし、先生も指してくれるから、授業に集中できるよ」という話を聞きました。それまで、グノの名前も聞いたことがなかったので、正直不安はありました。

夏期講習に参加してみると、毎回新しいテキストがその場で配られるので予習が少なく済むし、大量の宿題が出るわけでもなく、「ここから長い受験生活をグノだったら続けられる」という確信を得ました。

## 演習と添削で伸びた英語

小川：まず授業中の演習は、先生の採点基準が厳しいので、なかなか高得点は取れません。僕はそれに対抗心を抱

いて、「次の授業ではもっといい点を取って、先生を驚かしてやろう」というマインドで参加していました。「できなかったところは授業中に絶対理解してから帰るぞ」という気持ちにもなりました。これらが毎授業のモチベーションでした。

土屋：高3からは添削が多くなりました。それまで僕は「英語ができるほうだ」と思っていたのですが、サミングアップ<sup>\*1</sup>では低い点数を取って、最初は萎えることもありましたが、

でも、学んでいく中で「そういう考え方があるんだ」「新しいことを吸収できたのがすごく良かったな」と思えるようになりました。授業ではまず自分の力試しで解いてみるものの全然ダメで、でも最後には「成長できたな」と実感しました。

保田：英語の演習は、家ではなかなかできない貴重な機会でした。グノの授業はただ英文を読むだけではなく、演習後にしっかり解説もあって、語源から文章の論理構造まで教えてもらえます。

添削があることによって、自分で見抜けなかった論理構造や、知らない単語までが、1回の授業で洗いざらい明らかになります。「量より質」という面でそのとおりだったと思います。週1回の添削と演習だけでも十分戦えるようになります。

## グノーブルの英語勉強法とその効果

保田：高3の1学期はすごく不安でしたが、先生が勧めてくれる勉強法を続けていくうちに、応用力がついていく手応えを感じました。見たことのない単語でもある程度類推できるようになったし、速読の技術も上がりました。夏以降は「これを続けていけば大

丈夫」という確信に変わりました。

僕は、最低限の語彙は身につけようと、1学期までに、単語帳を8割ぐらい完璧にしていました。でも、授業で先生の解説を聞いていたら、英単語にはそれぞれ、単語帳には載っていない意味があるのだと気づきました。本当は高2から語源を参考にして単語帳を自分でつくるのがいいのかもしれませんが、僕は高3からのスタートで時間がそんなになかったの、先生が解説してくれたことを、単語帳に書き込んでいきました。

土屋：語順のままの理解と音声教材GSL<sup>\*2</sup>は中1からやっていました。一番伸びたと思ったのは、英語を速く、リズムを意識して読めるようになった時です。周りと比べてみても、速さではすごく効果がありました。

特に大きく伸びたと感じるのは、「英文を読みながらそのまま理解できる力」です。東大入試のように膨大な英文を読み解く場面でも、自信を持って臨めました。

語源に遡る単語解説も印象的でした。背景を知ることによって意味の広がりが見え、未知の単語も文脈から自然に推測できるように。東大英語のような情報量が多く難解な英文でも、正確に読み進める力がついたのは、グノでの学びがあったからこそだと思います。これは、単語帳で学んでいただけではできなかったと思います。

小川：グノーブルに入る前は、英文法を理解して、単語帳で単語を覚えて、そのあとに英語の長文を読むのが正しい学習法だと思っていました。長文も毎回「この文法が使われているから、過去形だな」という手順で読み進めていました。

でも、グノに入って音読を繰り返していたら、語順のまま理解できるようになりました。文法などを意識せず

に、すぐに英語を理解できるので、読むスピードが格段に上がり、文章量の多い東京大学の英語でも、考える時間に費やすことができました。

また、語源からの単語解説のおかげで、単語に関する理解が深まりました。単語を成り立ちから理解すると、複数の単語を関連づけて考えることができ、それらをつながりごと覚えることで、1つの単語から複数の意味を考えたり、同じ意味を持つ他の単語を思い出しやすくなります。単語を、たくさんまとめてグルーピングできたおかげで定着しやすく、単語帳で覚えるよりもはるかに単語力がついたという自信があります。

GSLでリスニング力もつき、速読力も上がりました。東大入試は長文で情報処理能力を問うような問題が多かったので、そういう場面で単語の意味に手間取ることなく、分からない単語でもすぐにある程度の意味が推測できるようになっていたのは、すごく有利でした。

## 音読で培った「要約力」

小川：要約演習のサミングアップでは、「長文のどこに主張が書かれていて、どこでその主張を補うために具体例を出しているのか?」という文章の構造を理解する力がつきました。毎週

ほうだくろうが  
保田 空駕さん  
東大文Ⅱ・麻布

\*1 SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答えは担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

\*2 Gnable Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法（ワークアウト）も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。



具体例を用いて噛み砕きながら説明してくれました。

古文・漢文も、本文を読んでも、出題者が解答に重視している要素が何か、自学だと全然分かりませんでした。でも、授業ではそういう解答要素についてもすごく丁寧に解説してもらえたのでありがたかったです。

#### スランプを乗り越える方法

**保田**：模試であまり芳しくない成績を取ってしまうと、モチベーションや自信が失われました。特に、秋模試で英語が思ったより取れなかった時は「この勉強法で大丈夫かな?」「間に合うかな?」と不安になりました。でも、先生にメールで相談して「このまま信じてやってみよう」と決めたことで、結果的に報われました。

数学に関しても、同じクラスの中で競争心をかき立ててくれるような環境を先生方がつくってくださったので、助かりました。

**土屋**：英語に得意意識はあったものの、順風満帆だったわけではありません。高3の秋には模試の結果に焦ることもありました。

でも、グノの授業を受けることで、「本質を理解できていれば大丈夫」という確信がよみがえりました。模試の点数に一喜一憂せず、英語を深く理解する力さえあれば大丈夫、そう信じられたことこそが、最後までぶれなかつ

で分析してくれます。それがすごく参考になりましたし、自分の成長にもつながりました。

**小川**：毎回宿題のたびに書き込んだセルフチェックシート\*を、スマホで写真に撮って保存していました。セルフチェックシートでは、「自分がどこまで解けたのか? どこが分からなかったのか?」が一目でわかります。授業で宿題の解説を聞く時の手助けになりました。数か月後に宿題を解き直す時、セルフチェックシートを見比べて、以前できなかったところが理解できていると、自分の成長を実感できます。それが、勉強のモチベーションにもなりました。

#### グノーブルの国語

**小川**：現代文は、自分が特に成長できた科目だと思います。東大の現代文は、本当に何を言っているのかわからないほど、難しい文がよく出ます。グノでは、文章に書かれた主張を解説するだけでなく、先生が具体例に落とし込んで説明していただきます。

1年通して授業を受けたことで、教養も深まり、難しい思想の文章も理解できるようになりました。受験勉強としての国語を超えて、「人間として成長できたな」という実感もあります。

先生の雑談も良かったです。授業中に3時間ただ難しい話を聞くのは、なかなか集中力がもちません。でも、先生が雑談を挟んで息抜きをさせてくれたので、最後まで身を入れて授業を受けることができました。

**保田**：現代文がすごく伸びました。東大の現代文は、解答欄が2行しかなくて、まとめるのがすごく難しい印象があります。本文の主張をどう取舍選択するか、自学では網羅できていなかったと思います。先生はそれぞれの解答に含まれる要素が、なぜ必要なのか、

文法を繰り返し勉強することにハードルを感じ、英語が苦手でした。グノは最初から長文を読んで演習するので、長文に出てくる単語を自然と覚えることになります。授業中の演習で先生に指されて答えたり、音読を重ねたりすることで、単語や文法に時間をかけなくても、英文がどんどん読めるようになりました。何よりも、「これからまた英語を勉強していきたい」と思えるくらい、英語が好きになりました。

#### 苦手を好きに変えたグノの数学

**小川**：グノの数学で一番良かったのは、演習と解説が必ずセットだったことです。前に通っていた塾では、授業時間が3時間とすごく長く、しかも、その時間が全部宿題の解説に使われていました。自分は集中力が長続きするタイプではなかったので、飽きてしまいました。

一方、グノは同じ3時間でも、最初の1時間は演習をして、解説がその直後に行われるので、演習で「分からない」と思ったモヤモヤを持ったまま授業に参加でき、解説に集中できました。

**保田**：僕は数学が一番の苦手科目でした。似たような問題でも解法が全然違うことがあり、参考書を見ても「どうしてその解法を選ぶんだ?」と疑問に思うことが多かったからです。自分の中で普遍的な思考のプロセスがなく、解法の判断でよくつまづいていました。

でも、グノの数学の「テーマタグ」は力になりました。問題のテーマを理解し、タグ付けすることで解法が浮かびやすくなるだけでなく、「なぜ、この問題に対してこの解法を選ぶのか?」を細かく理解でき、数学が好きになりました。

また、演習後に解説をする時、先生がみんなの答えをざっと見て、それぞれのできていないポイントを、その場

ず、かといって簡単すぎない「絶妙なレベルから始まり、少しずつ難度が上がっていった印象です。

高3の終盤には見たことのない単語が次々と登場し、内容も一段と深まりました。それでも「歯が立たない」とは感じず、これまでに培った力が連動して解釈できた瞬間、自分の成長を実感し、さらに意欲が湧く…そんな好循環が自然と生まれていたように思います。

また、その日の授業で教材が配られるスタイルも新鮮で刺激的でした。毎週初めて見る英文に取り組む中で、未知の文章への抵抗感は薄れ、「まず読んでみよう」「挑戦してみよう」と思えるようになったのは、大きな収穫でした。

**保田**：「文章のチョイスがすごくいいな」と思っていました。東大の入試は、英語力だけでなく、「歴史や科学、医学などに興味があるか?」「英語で考える力があるか?」を問われます。グノの教材はそういうところを最先端の文章で網羅していました。

海外の様々な媒体から教材用に文章を取ってくるのは、僕にとってすごく新鮮で、面白かったです。友達と「今週の文章はこうだったよね!」と学校で盛り上がることもありました。

#### 「グノーブルの英語」で変化したこと

**保田**：以前は、単語と文法を強化しなければと思っていました。グノに入ってから、ネイティブと同じように語順のまま理解できるようになりました。大学受験に限らず、今後のキャリアも広がったと思います。

**土屋**：僕が最後まで「英語が得意になりたいから勉強する」と純粋に思い続けられたのは、グノの英語が、単語や文法事項の詰め込みではなく、ネイティブに近い学び方だったおかげだと思います。

**小川**：グノに通うまで、単語の暗記や

になります。日本語と英語では、文章の論理構造が違っていて、サミングアップでも英文を日本語に訳すだけだと、筆者の言いたいことは全然理解できません。

東大の要約は多分、一番点数が不安定で「難しい」と言われますが、グノで練習を重ねたことによって、安定的に得点できるようになりました。それも音読効果の1つだと思います。

僕も基本的に毎日音読しました。文章を覚えるぐらい音読することによって、例えば大問4Aの文法問題でも、「音読した中でこんなのはなかった気がする」「なんか違う気がする」と判断できるようになりました。

音読と黙読はやはり違うと思います。音読は、「ここで詰まった」というのが明確に分かります。単語、文章の構造、文法、論理としての理解、何が足りないのかが、そこで判明します。黙読していると、「このあとを読めば分かるかもしれない」と、理解したつもりで読み進めてしまうことがあります。**土屋**：黙読は視覚ですが、音読は聴覚と視覚の2つに加えて、発声という運動感覚も必要なのが利点だと思います。

**小川**：音読では話すテンポや、アクセントも考えながら読む必要があるので、文章を深く考えることができるし、何よりも達成感と、独特の楽しさがあります。それがモチベーションにもつながります。

#### 「知」が凝縮された英語教材

**小川**：先生が毎回、科学や動物、哲学、エッセイなど、いろいろなジャンルの中から高度な文章を選んでくださるのが楽しみでした。

何より、1年分の教材を分厚いテキストでまとめて渡されるのではなく、その都度渡されることで、「今週はどういう文章を扱うんだろう?」という初見のワクワクがありました。

**土屋**：グノで扱う英文は、「難しすぎ

結構な量を重ねたからです。東大入試では大問1Aで要約が出ます。また、大問5の物語や大問1Bの挿入問題でも、要約で培った長文の構造に対する理解がすごく役に立ちます。

先生が「音読は毎日続けるのが大事だ」とおっしゃっていたので、どんなにモチベーションが上がらない日も、1日10分は欠かさずに続けました。そのおかげで、英文のリズム、論理の展開がかなり身につきました。また、音声も紙もない状態でも英文を音読できるようになりました。

**土屋**：授業中の演習では、かなりの長文もあって、読んでみると、情報量が圧倒されてしまうこともありましたが、「1つのパラグラフで言いたいこと1つを的確につかむ」という習慣が身につくからは、大枠で文章の意味をつかめるようになりました。

音読は、文章の展開をしっかり意識していかないと、詰まってしまうのは、すごく良かったです。

そもそも英語は人とコミュニケーションを取るために学ぶもので、文章を読むことは付随的なものだと思います。そういう本質的な英語に自分が近づけた時、「英語を喋るのがちょっと楽しいな」といった感覚が芽生えてきました。6年間グノに通っていたので、知らず知らずのうちに英語が好きになりました。

**保田**：音読を重ねることによって、英語の文章を英語のまま理解できるよう



た“軸”でした。そして、その“軸”を築いてくれたのが、グノの学びだったのだと思います。

**小川**：モチベーションが下がったのは、僕も秋の模試の時です。夏の模試よりも判定が悪くなって、周りの受験生に抜かれたことを実感し、「落ちるんじゃないか？」と思いました。この時は現実から逃げたくなって、勉強のやる気も湧かなくなりました。

でも、そのあとの授業で先生が「模試の判定は雑音だ。分からない問題は成長するチャンスだ」とおっしゃるのを聞いて、目が覚めました。それまでは、分からない問題に対して、「解けない」というネガティブな感情が湧いていましたが、「これが解けたら成長できる」というポジティブな捉え方ができるようになりました。それ以来、分からない問題をどんどん探しにいくスタイルに変わることができたのが良かったです。

グノーブルの先生

**小川**：他塾だと授業が一方向型で、宿題なども、先生が解き方を説明する時間が多くなりがちだと思います。そういう環境だと、僕は「自分でやらなくてもいいか」という思考になってしまいます。

でも、グノの先生は、演習の時にその場で生徒の解答を見て、できていないところを把握してから、授業を展開します。授業中に当てる時も、生徒の名前を呼んでくださいます。初対面でもすぐに名前を覚えてくださり、「生徒のことをよく見てくださっているんだな」という実感が得られました。生徒愛が感じられて「自分も頑張ろう」「先生の期待に応えたいな」という思いがやる気につながりました。先生の存在は大きかったです。

**土屋**：6年間通いましたが、やはり高3の授業はすごく濃密だったので、

担当の先生のことは印象に残っています。熱意や迫力が伝わってきて、2時間半の授業でも飽きることがありませんでした。

東大特別講座の時は、冠詞の使い方などを質問したりして、理解しきれなかったことを授業終わりに聞きにいくと、質問しやすい雰囲気でも迎えてくれました。

**保田**：すごく良い意味で、先生との距離が近かったです。だからこそ授業も、真剣に集中して受けようと思いました。大手予備校の授業では、質問にいけないことも多いですが、グノの先生方は授業後の質問でも親身になって教えてくださいました。それがすごくありがたかったです。

僕が強く感じたのは、先生にはそれぞれ、良い意味でキャラクターがあることです。面白くて、雑談もうまくて、僕たちも自然と授業に集中できました。学校でもそういう話題がたびたび出て、グノに通うのは大変ではなく楽しかった思い出です。

後輩へ伝えたいこと

**保田**：高3の最初に、今までの英語の勉強法とは違うことを言われると思います。でも、そこに関しては、絶対に先生方を信じて、突っ走ってください。音読のやり方などは先生の言うことだけを信じましょう。僕も最初は不安でしたが、やっていくうちに「成長できたな」と思いました。友達の中でも続けていた人は、確実にレベルを上げていました。

数学に関しては、実は、高2の入塾テストで1回落ちたことがあるほど苦手でした。それでも、先生を信じてやっていたら伸びました。変なプライドは捨てて、先生の言うことを聞いて、真摯に勉強と向き合って、それでもうまくいかない時は、相談すれば大丈夫です。

**小川**：「単語帳を使わない」「音読をする」という英語の勉強法は、グノの特徴的なところで、周りの大手予備校な



どとは違うと思います。受験が終わった今だから言えますが、本当に効果的だったので、どんなに不安に思っても、信じて最後まで突っ走ってほしいです。

それから、グノは先生との距離が近いのが大きな魅力です。悩みを相談すれば、すぐに返事をもらえるし、質問にも親切に答えてくれます。そういった環境を活かして、長い受験生活を最後まで乗り切ってください。

**土屋**：僕の学校は他塾に通う人が多くて、グノ生は少数派でした。だから、周りの人たちはどんな教材をやっているのか、気になることもありました。でも、英語は「どの教材を解くか?」「どれほどたくさん解くか?」よりも、「何を吸収できているか?」のほうが大事です。その点で、グノは他塾に引けを取っていないし、むしろ、アドバンテージにすらなると僕は感じていました。

僕は、グノの授業を義務と感じたことは一度もありません。「英語が得意になりたい」「もっと深く理解したい」という思いが常に原動力となり、最後まで主体的に学び続けられたことが、良い結果につながったのだと思います。気づけば、英語を英語のまま捉える“ネイティブに近い思考回路”が育ち、英語そのものをますます好きになっていました。

それと、グノの授業は、クラスによる内容の違いがほとんどありません。僕も高2でクラスが下がったこともありましたが、とても充実した授業を受けられました。クラスは気にしないでいいと思います。

19期生  
PART  
3  
合格者インタビュー



進路選択が「夢」を引き寄せる

**細田**：もともと理工系の分野に興味があり、「できるだけ高いところを目指してみたい」と思っていて東京大学の理一を志望しました。専攻する分野はまだ決まっていなかったので、これから探っていきたいと思っています。

**柴田**：東大を目指すことにしたのは、「進学してから専攻する分野を決められる」と聞いたからです。自分には、まだ明確にやりたいことがないので、昔から生き物が好きだったので、理科二類を受験することを決めました。

**青柳**：受験勉強の中でも物理が好きで、志望校を決める時も「物理系のことを学びたい」という思いがあり、東京科学大学に行くことを決めました。海外の人と話をしてみたいし、他の国ではどんなふうに物理を教えているのか知りたいので、「留学は絶対になりたい」と思っています。

**飯島**：僕は機械の分野に強い東京科学大学を選びました。将来は医療分野に進みたかったのですが、手先が不器用

なほうなので、「医者にはなれないな」と諦めていました。

ちょうどその頃、身近な人が脳梗塞で倒れて、手足があまり動かせない状態になりました。「何か自分にできることはないかな?」と考える中で、義手に興味を持ち、将来は医療用の義手の開発に携わりたいと思っています。

2年生で希望のクラスに進めるかどうかは1年次の成績次第なので、頑張ります。

**高橋**：高2までは理系志望だったのですが、物理や化学、数Ⅲができず文転して、東京大学の文科二類にしました。

自分の学校では、文系の生徒はみんな東大か一橋に進学する流れがあって、自分もそこまで深い考えもなく東大を志望しました。経済などを学んで、できれば起業も視野に入れていきたいです。

**鈴木**：情報工学に強い大学の中で、東京科学大にも迷ったのですが、文化祭やオープンキャンパスでの雰囲気惹かれて、東大に決めました。

現時点では情報工学の中のどんな分野に取り組むか、細かいところまでは絞れていないので、大学でいろいろな講義を取って見極めていきたいです。

グノーブルとの出会い

**鈴木**：単純に自宅から近い校舎があったので入塾しました。英語と数学の雰囲気が好きだったので、全教科グノで取りました。集団授業でも、先生が一人ひとりを見てくださるグノが気に

- (左から)  
たかはしりょうた  
**高橋 遼太さん**(東大文Ⅱ・麻布)
- ほそだしょうま  
**細田 匠真さん**(東大理Ⅰ・開成)
- すずき ななみ  
**鈴木 七海さん**(東大理Ⅰ・女子学院)
- いいじまのる  
**飯島 穰さん**(東京科学大工・海城)
- あおやぎとし  
**青柳 聡さん**(東京科学大理・攻玉社)
- しばた こたろう  
**柴田 琥太郎さん**(東大理Ⅱ・駒場東邦)

本文中敬称略

入っていました。

**高橋**：高2の4月から英語だけ通い始めました。その時点では最後までグノでいくかどうか決めていませんでしたが、結果としては、グノの英語を最後まで続けました。高3からは東大を目指すという目標もできて、東大国語も取りました。

**飯島**：中学受験の時、親の勧めで小学5年から中学受験グノーブルに入りました。いろいろな先生が印象に残っていますが、特に印象深かったのは算数の先生です。威厳のある先生で、その先生のご指導のおかげで勉強に集中できて、第1志望の海城に受けました。

大学受験の塾選びは迷いましたが、やっぱり中学受験の時に楽しく勉強できたグノーブルに通うことにしました。高1から英語と数学、高2で物理と化学も取りました。

**青柳**：僕も、中学受験グノーブルに小学5年から通っていました。当時、社会は苦手でしたが、「算数はできる」と褒めていただいたのをよく覚えています。

僕は家で勉強できないタイプなので、中学に入ってから勉強しなくなるのを危惧した親から、塾に通うよう言われました。自分でも「グノをやめると、勉強をしない」と分かっていたので、大学受験もグノにしようと思い、中1から高3の最後まで通いました。

**柴田**：中学の間ずっと英語が嫌いでした。「何でわざわざ他の国の言語を勉強しなきゃいけないんだ?」と避けていたら、どんどん成績が下がりました。



あおやぎとし  
**青柳 聡さん**  
東京科学大理・攻玉社

大学受験に対する危機感が募ってきた頃、もともと英語を重視していた母が、「大学受験後も活かせる英語力を育ててくれる、グノーブルという塾があるよ」と勧めてくれました。高1の春、同じ部活の友人を誘って一緒に講習に行き、「ここがいい」と思って入塾しました。グノに通っている先輩が勧めてくれた影響もあります。

**細田**：グノに入ったのは中3の春期講習からです。学校の友達は中1から塾に通う人が圧倒的多数でした。みんながすごく分厚い他塾のテキストと延々向き合っているのを見て、「これは自分には合わないな」と感じていました。

中2の終わりに「そろそろ塾に行くか」と考えた時、母がいろいろリストアップしてくれた中からグノに決めました。当時まだ中3で、大学受験のことも全然見据えていませんでしたが、授業の内容、学校の勉強の助けになるかなども考えて決めました。

### 頭脳フル稼働のグノ英語

**細田**：グノの授業では、特に緊張を強いられることもなく、毎回の授業でももらえる添削の返却を、ワクワクしながら待っていました。提出するとすぐに結果が返ってくる、というサイク



しばた ことろう  
柴田 琥太郎さん  
東大理Ⅱ・駒場東邦

ルが楽しかったです。解説の密度も濃くて、いろいろな知識が頭に入ってくる感じも面白かったです。

**柴田**：高2までは比較的のんびり受けていましたが、高3のカリキュラムに入ってから、濃密な授業がすごいスピードで進みました。とにかく集中して取り組み、記憶の薄れないうちにすぐ復習していました。

解説の時は、先生から指名されることも多く、分からない時は緊張したり、分かっている時は「当ててくれないかな」と願ったりしていました。勉強しにいくというより、授業を楽しく聞きにいく感じで、復習までセットで楽しみました。

**青柳**：授業内演習で要求されるレベルは高く、深く考える必要があるので、速読する必要もありました。いつも「今日こそは」という気持ちで臨んでいました。提出したあとは、「いいコメントがついているといいな」と願いながら添削が返ってくるのを待っていました。

答えに自信がないことが多かったので、「当たるのはちょっと嫌だな」と思いながら授業を受けていました。楽しくないわけではないので、いつも一番前の席に座っていましたが、英語は少し苦手だったので、ドキドキしていました。

**飯島**：僕も英語は苦手、本当に自信作だと思って演習を提出しても点数が振るわないこともあり。でも、僕も、授業では常に前の席に座り、「先生の説明を全部自分のものにしてやるぞ。吸収してやるぞ」という意気込みでいました。

**高橋**：添削が毎回あったのはすごく重要だと思います。

高3の初めは、サミングアップ\*でなかなか合格点を超えられず、何回「粘り強く」と書かれたか、もう覚えていないぐらいでした(笑)。でも、



すずき なみ  
鈴木 七海さん  
東大理Ⅰ・女子学院

授業の復習と音読を続けていくと、段々点数も上がってきました。連続で合格点を取った時は、先生に「最近いい感じだね」と言われて、本当に嬉しかったのを覚えています。

**鈴木**：グノの授業は、その場で添削していただいたり、遅くとも1週間後には添削して解説もばっちりされている状態で返ってきたりするので、考える時にも真剣になれたし、すぐに復習するのも自然にできていました。

### グノ英語の特徴「語源」と「音読」

**鈴木**：英文を漢文のように遡って読むことや、単語帳で脈絡もなく暗記する勉強方法に苦手意識があったので、グノの授業を受けた時は「これがやりかった！」とすごくしっくりきました。

高3の時は、グノは宿題が少なく、単語の小テストもなかったため、復習に専念できました。授業で扱った文章をしっかり読み込む時間が取れて良かったです。

**高橋**：共通テストのリーディングは、どれだけ速く読めるかが勝負です。直前も、特に共テの対策はせず、グノの長文だけをずっと読んでいたのですが、スラスラ読めるようになっていたので、「英語を、語順通り遡らずに読むのは、本当に大事なんだな」と思いました。

東大の二次試験の英語は、120分と

いう短い時間でどれだけ点を取れるかが重要です。例えば、1Aの要約問題で詰まってしまうと、後半にたどり着くこともできません。だから、速く、同時に、深く読めることは得点に大きく影響すると思います。

**飯島**：個人的に良かったと思うのは、単語を語源から理解して覚えることです。このやり方を初めて聞いた時は「単語帳を使ったほうが楽じゃないかな？」と半信半疑で、「これでは、覚えられないでしょ」とも思いました。

でも、グノに3年間通う中で自然と感覚が身についてきて、高3の時には、先生が次に言うことも何となく予測できるようになりました。英文を読む力が上がると、英語の勉強が楽しくなりました。初めは、学校で指定された単語帳を使っていましたが、高2以降は、単語帳を開いた記憶がありません。

**青柳**：語順のまま理解するというのは、グノでは徹底されていました。先生たちが解説する時にも返り読みはしません。だから、前から読むことは普通になっていたの、いつのまにか、読み方が変わって、ちゃんと読めるようになっていたのを実感しました。

僕は、単語帳が苦手でした。いかにも「勉強」という感じがして、気持ちを入れ直さないと取り組みません。でも、語源からの単語解説のおかげで、わざわざ「勉強をするぞ」という気持ちにならなくても、自然と単語を覚えられるようになりました。音声教材 GSL\*で英語に慣れていったのも良かったと思います。

**細田**：先生が解説する時も、語順の通りに前からどんどん解釈していくので、それをまねしているうちに、英文を読むのがどんどん速くなりました。

日本語を介さずに英語のまま意味を取れるようになると、筆者が言いたいことが頭の中に情景として浮かんでく

るので、すごく良かったです。長文に出てくる単語を、語源から覚えていくと、単語同士のつながりが分かり、ネットワーク化して記憶が定着しやすくなります。

**柴田**：高2までは、単語帳を完璧にすれば英語はできるようになると思っていました。でも実際にやってみると、暗記が苦手途中で挫折してしまいました。

単語帳を使っていた頃は、一度全部覚えたつもりでも、しばらくすると忘れてしまって、また復習するという状態で、「これがいつまで続くんだ?」と思っていました。それに、単語帳を使っていた頃は、1単語につき1個の意味しか覚えていなかったの、唯一知っている意味だけで考えようとすると、文脈的におかしくなることが多々ありました。

そんな頃、先生が授業で「単語帳は要らない」という話をしてくれたのですが、最初は「嘘でしょ?」と信じていませんでした。それでも、しばらく授業を真面目に受けていたら、全然単語帳をやっていないのに学校の単語テストの点数が上がり、高得点を維持できるようになりました。英文も自然に読めるようになって効果を実感できたので、最後までグノのやり方を信じて突き進みました。

### グノーブルの英語勉強法とその効果

**細田**：東大は要約の問題が絶対に出ます。短い時間で英文を解釈して要約するのは難しいですが、毎週サミングアップを欠かさずやると、英語の読み方がしっかりと身について、得意意識が芽生えます。

それに、音読はやはりすごく効果がありました。一度理解した文章を音読するので、内容がスルスル入ってき

て、前から読み続ける練習になります。夏や秋の模試では、時間が足りず、大問1Bか4Aのどちらかを捨てていました。でも、音読を続けていたら読むのが速くなり、2月の直前期や本番では、以前捨てていた問題も全部解くことができました。

**柴田**：音読をするようになって、英文の解釈の仕方が変わりました。僕はもともと英語が苦手だったので、英文をいちいち日本語に直して、構文解釈をして、パズルみたいな感じで読んでいました。音読ではそんなことを考えている暇もないので、以前のような癖がなくなって、自然と読めるようになりました。

夏休みまでは英語の勉強をすごくじっくりやっていたのですが、秋以降は、それまで全然勉強していなかった理科に集中していました。でも、音読だけは、夜寝る前の15分ぐらいで欠かさずやっていました。

**青柳**：僕も、夜寝る前の音読を習慣にしていました。音読は、文を遡って読むことができません。だから自然と、語順のままの理解ができるようになっていきました。英語も1つの言語なので、ネイティブの人たちは語順の通りに理解しているはず。音読のおかげで僕もネイティブの脳に近づいたと思います。



ほそだ しょうま  
細田 匠真さん  
東大理Ⅰ・開成

\* SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語(読解)で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答案は担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

\* Gnable Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法(ワークアウト)も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

**飯島**：毎週音読をするようになったのは、高2からです。自分で声に出して読むことで、聞き取る力も上がった気がします。特に対策した覚えがないのに、リスニングの成績も上がっていました。やっぱり音読のおかげだと思います。毎日続けることで、耳で聞いて英語を理解することに頭が慣れてきたのだと思います。

**高橋**：音読は大事です。特に冬休みに入ってから、要約を毎朝1個ずつ音読することを習慣にしました。音声教材は速さが2種類あって、ハイパーバージョンは英文をちゃんと理解していないと、絶対についていけません。それで、自分の理解度を確認するようにして、喋れなかったところはもう1回文章や、ノートを見直すことを繰り返していました。

ただ書いてある文章を読むだけでは、効果はそこまで高くないと思います。音声教材があることで、それと同じぐらいのスピードで読むことを意識できたのも良かったです。

**鈴木**：最初は、音読といっても英文をただ読み上げるだけでした。「これじゃダメだ」と思って、段落ごとに意味を理解しながら読む意識を徹底するようにしたら、成績が上がりました。黙読だと、英文を途中で読み飛ばすことがあります。音読だと、知らない単語に出合った時に辞書で調べるので、意味や発音を確実に理解できます。それでリスニングもできるように

なったと思います。

### 「知」が凝縮された英語教材

**鈴木**：海外の大学のウェブサイトに載っている文章や、ちょっと哲学的なもの、先生からのメッセージが込められているものなど、授業で扱う英文のジャンルが幅広くとても面白かったです。記憶に残っているのが、高3のクラス分けテストのあとにあった、「レジリエンス」に関する英文です。「クラス分けテストであまり振るわなかった人も、ここから挽回できるから」という先生からのメッセージが伝わってきました。

**高橋**：グノの長文では、高3の9月以降によく扱われたエッセイ・小説的な文章が好きで、普段の生活では読まないような文章に触れるので、好奇心を刺激されました。友達と「今日の文章はやバかったね」「面白かったね」「結構楽しめたね」など、感想を共有したりしていました。

**飯島**：難易度も、「全力で向かって解けるか？」というぐらいでちょうど良かったです。なおかつ社会性のある内容も多かったのも、ただ英語力を上げるだけではなく、教養も身につきました。

**青柳**：グノの長文は面白くて、また読みたくなる内容が多いので、「復習するぞ」ではなく、「復習したいな」と自分から思えました。生活習慣の話を読んで「自分も実践してみようかな」と思うこともありました。例えば、「不安は書き出すといい」という内容の文章を読んだので、共通テストの時などにやってみたら効果を実感しました。

**柴田**：教材には、自分に役立つ文章もあるし、単純に面白い文章もありました。今年の東大の1Bで出た文章は、似た内容のものをグノの授業で読んだことがありました。

授業では、論理の展開や筆者の伝え方なども解説されるので、現代文の読



たかはしりょうた  
高橋 遼太さん  
東大文Ⅱ・麻布

解力の向上にもつながりました。夏から秋にかけて、現代文の成績がめっちゃくちゃ上がったのも、グノの英語のおかげだと思います。

**細田**：教材はすごくレベルが高く、情報も多くて、演習の時間内に読み切るのが大変なほど、読み応えがあります。過去の入試問題を引っ張ってきただけでなく、先生方がいろいろな英語の文章を読んで、問題に仕立ててくれていると思います。先ほど出た「レジリエンス」の話は僕もよく覚えています。

### 「グノーブルの英語」で 変化したこと

**細田**：グノに入った中3から高3までの間に英語で苦労することはありませんでした。

リスニングも音読をやる中で点数が伸びました。夏休みの頃は東大模試で15問中7問しか正解できなかったのが、直前期には、13問から14問は正解できるようになりました。本番もしっかりと取れたと思います。英語が安定してさらに伸びたのは、やっぱりグノのおかげです。

**柴田**：もともと、英語が本当に嫌いでした。単語はアルファベットの羅列で意味が分からないし、be動詞と一般動詞の違いも分からないような状態でした。グノに入ってから英語力は大きく伸びましたし、英語に対する認識も変わりました。高3の時には、英語の文章を読むのが楽しくなっていました。

**青柳**：中3までは、そこまで復習に力を入れていたわけではありません。音読をするようになってから受けた模試で、点数の折れ線グラフがすごい傾きで上がったことがあり、効果を実感しました。それ以来、音読や復習をちゃんとするようになり、さらに英語の成績が伸びました。

**飯島**：中学生の時は英語が嫌い、英文を見るだけでも嫌で、読みたくありませんでした。でも、音読などを続けていくうちに、英語が読めるようになり、「楽しい」と感じるようになりました。先日、卒業にあたって先生から寄せ書きをもらい、そこに書かれていた英文も、スラスラと日本語のように読めました。僕も、グノに入って、英語に対する認識が変わりました。

**高橋**：僕はみんなと逆で、もともと英語には自信がありました。高2終盤の模試でも偏差値が高かったのですが、直後の春期講習で先生から「模試の結果で本当の英語力は測れない」と言われ、いい意味で、鼻を折られたことがありました。しかも、その頃、添削でも全然点が伸びず、「やっぱり英語の勉強法を一新しないとダメだな」と実感して、「グノについていこう」と決意しました。

そこから読むスピードも上がったし、ただ点を取るための科目としてではなく、英語に対する興味もどんどん増していきました。今後、日本国内にとどまらない活動をしていくために



も、大学でも勉強を続けて、ちゃんと英語を使える人間になりたいです。

**鈴木**：グノに入る前は、学校で配られた文法や読解の冊子などを読むばかりで、リスニングやスピーキングに全然自信がありませんでした。発音が合っているか、相手に伝わるかが不安で、話すのが怖いと思っていました。でも、音読を毎日やったことで、話すことに対する抵抗感も減りました。

### グノーブルの数学

**鈴木**：数学は解法を立てるところまでが大変で、以前は、発想力がある人しか得意になれない科目だと思っていました。

でも、グノの数学では、問題のテーマごとにタグ付けしていく手法「テーマタグ」を教えてもらえました。思考プロセスを可視化する「フローチャート」のやり方も身につきました。こうしたやり方がちゃんとグノに用意されていたので、ある程度の点数がいつも取れるようになったと思います。

セルフチェックシート\*を使うことで、宿題をどんな考え方で解いたのか、思い出しながら解説を聞くことができるようにもなりました。書いた内容を先生にチェックしてもらえただけでなく、自分の考え方の癖を把握するのにも役立ちました。

**飯島**：特に高3からの授業は、毎週がテスト形式の演習で緊張感がありました。僕は緊張して実力が発揮できないタイプなので、テスト慣れすることができたのが一番良かったです。

僕は、今まで、自分のミスを書き出して覚えておく習慣がなくて、小学生や中学生の時から同じミスを何回も何回も繰り返してきました。それを改善できたのも、セルフチェックシートのおかげです。

**青柳**：数学がもともと得意で、学校の

授業では解いたあと時間が余ってしまいました。解説を待っている間に気が緩んでしまって、自分と違う解き方が紹介されている時も流してしまうようなことがありました。

グノでは、高3でテスト演習が始まるまで、解いた人から次の問題に進める授業形式だったので、暇な時間がなく、ずっと頭を動かして集中できました。その状態で解説を聞けるので、いろんなやり方を学べました。

僕は間違えた問題について「どう間違えたのか?」を振り返るためだけに、セルフチェックシートを使っていたと印象に残るからです。自分の間違いリストをつくっておくと、傾向が分かるようになりました。例えば、問題を解いている時も、「これは間違いやすいポイントだから、ちゃんと復習しよう」と思って、見直しの優先順位や時間配分も調整できるようになりました。

**細田**：「テーマタグ」が役に立ちました。数学は、問題を目の前にすると、とりあえず思いついたまま突き進んで、あとからどうしようもなくなるということがよくある科目だと思います。でも「テーマタグ」があれば、一旦問題を見てから落ち着いて、自分が持っている武器と、それをどういう順番で使うかを考えられます。そうすると泥沼にはまった時にも簡単に抜け出せそうですし、逆に「この問題は多分解けないか

\*セルフチェックシート:高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。

いじまみのる  
飯島 稯さん

東京科学大工・海城



ていました。他にも、授業中いつも明るく元気で、「いつ休んでいるんだ?」と思うような先生もいました。

**飯島**：僕が一番印象に残っているのは、化学の先生です。僕は化学が好きなので、教科書を読み込んで、隅に書いてあるような知識も覚えて、「先生をあとと驚かせるような質問をしてみたいな」と思っていました。

でも、僕がどんな質問をしても、先生の知識量はすごくて、僕が知らない新しいことを教えてくれました。「先生は、本当に化学が好きなんだな」というのが伝わってきました。また、総合型の志望理由書の添削は、10回くらいしてもらって、面接のアドバイスもしていただきました。本当に先生のおかげで無事に合格できたと思っています。

**青柳**：グノの先生はみんな個性的な人ばかりで、思い出がない先生はいません。特に印象に残っているのは、どの先生も、どんな時間でも、「待っていたよ」という雰囲気です。生徒の質問を受け入れてくれることです。

**柴田**：グノの先生は、とにかく熱量がすごいから、信頼できました。

他塾に通っている先輩たちが合格体験記で「単語帳は大事だ」「東大の過去問を何十年分やった」と言っているのを目にすると、「大丈夫かな?」と思いました。でも、結果的には、グノの先生を信用したことで、東大に合格できました。

**細田**：グノの先生はみんな優しく、面白くて、頭も良く、そして、顔と名前をすぐに覚えてくれて、個人個人

けになったら、僕は毎日、学校や塾の自習室に行って勉強していました。そうすると、周りの雰囲気につられて勉強モードに入って、気づいたら夕飯の時間になっていることがほとんどでした。

でも、自信は常にありませんでした。特に夏休みに受けた模試の成績が悪くて「浪人するんじゃないかな」と思いました。でも、英語の先生に「目の前の英文に集中していただいい」と言われました。だから、自信がなくなった時は、自習室に行って、もうひたすら勉強していました。

**高橋**：一番不安になったのは、やっぱり共通テストが終わったあとです。本当に泣きたくなるぐらいの点数を取ってしまって、「これでは受からない」と思いました。この時、共テの前からずっと採点をお願いしていた先生に、「共テに失敗してしまいましたが、頑張ります」というメールを送ったら、「あなたならできます」という激励のメールが来て、それでメンタルを持ち直しました。

**鈴木**：私もモチベーションがなくなることはあまりありませんでしたが、直前期は特に自信がなくて、問題を解いている間も「落ちたらどうしよう?」と考えていることがよくありました。だから、小さいノートを買ってきて、自分の今の気持ちをバツと書き殴り、そのページを破って捨てて勉強する、というやり方をしていました。

### グノブルの先生

**鈴木**：どの先生も本当にその教科が好きなのが伝わってきました。高校で学べるのは、その分野の中でも限られた範囲だと思いますが、グノでは、それを「深く掘り下げてみたい」という気持ちになる授業で、楽しかったです。

**高橋**：英語の文法の先生に、どんな質問をしても絶対に的確な答えが返ってきて、「先生は、どれだけ深く文法を知っているんだろう?」とずっと思っ

りました。この頃に教材で、気持ちを切り替えられる文章を読んだことで、やる気をもう1回呼び起こしました。頼れる教科がなかったのですが、「自分が受からなかったら誰が受かる?」と思い込んで、無理やり自信を取り戻すこともありました。

**青柳**：塾に通っている人はみんなそれぞれに、行きたい大学があって、「そこに向かって努力しよう」と思っているはずなので、授業に出ている時点で、基本的にはモチベーションがあると思います。「自分にはモチベーションがない」と思ってしまうのは、だいたいは疲れていたり、環境に飽きたり、勉強にも飽きたりしている時だと思います。そういう時は、散歩に行ったり、勉強を1、2時間しかしない日をつくったりすることで、またモチベーションが復活すると思います。

現役生が自信をなくしかけるのは、模試が一気に増えて、自分で勝手に周りと比べるからです。夏休みに友達から「14時間勉強している」と聞き、10時間勉強していた自分は「少ないのかな?」と思って自信をなくしたことがあります。過去問演習でも、合格最低点だけでいいのに、合格者平均点とも比べるようになって、「平均点には全然届いていない」と落ち込みました。上とばかり比べるとどんどん疲れてしまうので、「誰かと比べない」を心がけると良いと思います。

**飯島**：僕の場合、モチベーションがなくなることがあまりありませんでした。高3の2学期が終わって、学校の授業もなくなって、自分で勉強するだ



**飯島**：物理・化学両方に言えるのは、双方向の授業だったということです。先生からの質問が飛んできて生徒が答えます。初めて説明するような事象について問われた時も、今ある知識から考えて説明しようとするので、知識がいつそう頭に定着しました。

僕は総合型選抜で受験しましたが、東京科学大の試験の形式はグノの授業の形式に似ていました。面接時に問題が出されて、その解説をするように求められます。グノの双方向型の授業で鍛えられた力を存分に発揮することができました。

**青柳**：物理は、僕もαレベルに入っていました。塾であんなに楽しそうに先生が教えている姿を見たことがないくらい、先生の個性が出ていて、あまり勉強という感じはしませんでした。

僕は理科の中でも化学が苦手でしたが、特に色などを覚えるのが苦手でしたが、グノの独自プリントにすごく助けられました。授業では映像を使うこともあって、視覚的にも印象づけることができたと思います。

### スランプを乗り越える方法

**細田**：つらかったら一旦休むのも大事だと思います。数学で一時期、全然点数が取れなくなってしまい、それをセルフチェックシートの質問欄に書いて出したら、「そういう時は、一旦簡単な問題に立ち返ってみたらいいよ」とアドバイスをもらいました。困った時は相談するのも大事です。

**柴田**：僕は学力に余裕がなかったので、モチベーションはなくなりましたが、自信をなくしていることは多かったです。先生に「ここからでも伸びるよ」と言われても、僕は「もう英語が伸びないんじゃないか?」「本当にここから急激に伸びるのかな?」などと疑問に思うこともあ

で解説を聞くと、本当に理解度が高まります。春期講習でやった過去問の内容をまだ覚えているくらい頭に定着しました。

国語の先生は温かい雰囲気、その一方、指名はバンバン飛んでくるので一定の緊張感もあります。知識量も膨大で、「そんなことまで知っているんだ」と驚かされました。どんなに難しい現代文の問題も、先生の解説を聞くと絶対に理解できます。やっぱり教え方が素晴らしかったです。

**鈴木**：高3の夏期講習と冬期講習で国語を取りました。4日間だけでカバーできるか不安でしたが、古文・漢文の基礎知識から現代文の答案の書き方で、本当に全部カバーできるように凝縮された内容でした。すごくありがたかったです。

特に、現代文の難しい内容をとても身近な話題で説明して下さったので、理解しやすかったです。先生の話が面白くて、毎回笑っていました。

### グノブルの理科

**鈴木**：物理のαレベル\*は、科学者の視点に立って考える授業です。問題演習が始まる時期は比較的遅くて、講義期間が長かったので「本当にこれで演習問題が解けるようになるのかな?」と、最初は心配になりました。でも、物理は結局、問題を解きまくることよりも現象理解が大事なので、私にとっては最適解でした。

化学の先生は知識量がすごくて、私が何を質問しても答えてくださいました。化学の現象を説明する時も、身近で起こった事柄について話してくださいたり、実際に実験して「こう扱ったら危ない」というのを見せてくださったりしました。ただ説明するだけで終わらないのが、学校の授業と違って面白かったです。

ら、他の問題に時間を使おう」と判断することもできます。戦略的なレベルが一段上になりました。

高3の授業では先生が、問題への向き合い方だけでなく、決められた試験時間と問題数に対する戦略の練り方も教えてくださいました。それを実践すると、解きやすくなったり、点数が上がったりしました。

セルフチェックシートは、間違えた点を書き出すことで、解像度も上がるし、間違えた原因やそれまでの過程などが頭に残りやすくなるので、役に立ちました。

### グノブルの国語

**細田**：夏休みに東大国語を取りました。丁寧に添削してもらったり、質問に答えてもらったりしました。授業中は、問題解説の途中で紹介されるエピソードが面白かったです。

**高橋**：講習は春・夏・冬・直前期に、タームで分かれている現代文・古文・漢文を全部取りました。現代文だけ、古文・漢文だけという取り方もできたので、そこは良いポイントだと思います。

授業では、基本的に過去問をメインに解きました。赤本や青本では、解説が微妙な問題がたくさんあり、一人で考えていると悩みますが、先生の授業



\* 物理αレベル：科学者たちの観察や思考を体験しながら理解を深めるカリキュラム。

にアプローチしてくれます。それがすごく嬉しかったです。

あってもグノと自分を信じて最後まで頑張ってください。

**飯島**：グノは、他の大手塾に比べ、1クラスの人数が少なく、先生が一人ひとりの相談に乗ってくれるのが一番の強みだと思います。先生が親身に対応してくれるのが、すごく嬉しかったです。皆さんも、困ったことがあったら、とにかくグノの先生に相談しましょう。

**高橋**：グノに通っているなら、主体的になるのが秘訣だと思います。先生の言うことを聞くのは大前提ですが、やるべきことや自分の弱点を一番知っているのは自分なので、ちゃんと自己分析しながらグノを活用することが大事です。

勉強について「量より質」と言う人が結構いますが、個人的には量は絶対に必要だと思います。できる限りの勉強量を確保して、主体的に取り組むと、それが質に転換されていくと思います。

**鈴木**：大学受験では合格が分かれています。受験期に自分なりに勉強を頑張ってきたという経験は将来の自信につながると思います。だから、「今やっている勉強は将来につながる」と考えて頑張りたいです。

こちらから何か言えば、グノの先生はほぼ確実に応えてくださいます。「先生を利用する」ぐらい積極的な気持ちでグノに通うといいと思います。



後輩へ伝えたいこと

**細田**：やっぱり第一に「とりあえず音読。話はそれからだ」と言いたいです。その上で、いろいろな先生に相談しながら、自分なりに方法を見つけて勉強していくのがいいと思います。

**柴田**：僕も音読が一番大事だと思っています。以前の僕は英語が嫌いでしたが、それだと受験を乗り越えられません。結局、好きになって、勉強を「自分からしたい」と思えるようになるのが近道で、強いです。だからといって、好きな教科だけをやると合格には結びつかないので、バランス良く、楽しんで、受験勉強に取り組めればベストだと思います。

**青柳**：現役生は、いろいろ自信を失う時もあると思います。どんなことが

中学受験グノーブル 津本先生 から青柳くんへ

大学へのご進学おめでとうございます。海外での生活から戻られての中学受験グノーブルへのご入塾であったと記憶しています。そのためか国語の「漢字」に苦勞をしていたこともよく覚えています。ただ長文読解においては光るものがあり、保護者様にも国語の読解は武器になるとお伝えしたこともありました。国語以外の科目でも、途中入室ということもあり苦勞したかと思うのですが、持ち前の明るいキャラクターで教室内ではそのような姿は微塵も見せず頑張っていました。中学・高校でも同様に様々なことを克服してきたのだらうと思います。青柳くんの今後のご活躍を心から願っております。

中学受験グノーブル 伊藤(琢)先生 から飯島くんへ

大学へのご進学おめでとうございます。中学受験の頃は、良い意味で無理をせず、楽しみながら学習を重ねてくれているように感じていました。高校からもグノーブルに通われたということで、中学受験での通塾が好印象であったのであれば嬉しく思います。大学生生活も伸び伸びと謳歌してご活躍ください。



- (左から)  
うえた ともよし  
**上田 知祥さん**(東大理Ⅱ・栄光学園)
- すが あかり  
**須賀 愛佳里さん**(東大文Ⅰ・白百合学園)
- おおこし みお  
**大越 美緒さん**(東大文Ⅰ・フェリス女学院)
- みやざと さつき  
**宮里 早月さん**(東大文Ⅱ・女子学院)
- ありが りょうへい  
**有賀 稜平さん**(東京科学大医・栄光学園)

本文中敬称略

進学先で拓く未来の自分

**宮里**：かなり安直ですが、大学といえばバツと思ひ浮かぶところ「東京大学」に憧れがありました。父がよく赤門まで連れて行ってくれたことで、どんどん思いが深まり、そのまま志望大学として考えるようになりました。

文二にしたのも、経済学者である父の影響で、経済学が身近だったからです。ただ、入試に向けて世界史を勉強したことで、国際関係にも興味湧きました。経済もいいけれど、将来は国際関係に進むかもしれないと考えています。

**須賀**：周りから法学部への進学を勧められていたのですが、私自身は法学よりも文学や芸術の方面に興味があり、経済や、理系への関心も捨てきれず、進む学部について「今はとても決められない」という気持ちでした。法学に対しても段々興味湧いてきましたが、「選択の余地をこの手でつかみ取りたい」という思いで、2年間は教養学部で学べる東京大学

を志望しました。

もう1つの動機は、東大が関東圏では唯一「ギャップイヤー制度」を利用できる大学だからです。ギャップイヤー制度というのは、1年間休学して社会体験を積み、その後大学に入学するというものです。去年の3月にグノーブルの授業の教材で、その制度を知った私は「やりたい」と強く思いました。つい先日まで、そのための資料づくりもしていましたが、家族の賛成が得られず、実現は難しそうです。でも「東大に入ってから、自分の才能の筋を見極める機会がたくさんあるだろう」とは思っています。

**大越**：私はもともと数学がすごく苦手なのに、理系志望でした。それで、早めに挫折したのですが、「数学を頑張っていたから、国公立に行きたい」という気持ちはありました。

たまたま友人に誘われて東大の文化祭に行った時、「この大学なら、文系で頑張りたい」と思って、そのまま東大を目指し始めました。文科一類にしたのは、政治に興味があったからです。

**上田**：僕は受験勉強を通して化学に強い興味を持ち、大学でしっかり研究するため、東大をずっと意識していました。

化学分野の研究を通して、「社会に役立つことができた」と思って、理科二類を志望しました。

**有賀**：僕が医学部を目指し始めたのは、二人の従兄弟の影響です。一人は慶應義塾大学の医学部で、もう一



うえた ともよし  
**上田 知祥さん**  
東大理Ⅱ・栄光学園

人は東京科学大学の医学部に現在通っていて僕の先輩になります。親戚の集まりがあると、医学部の楽しさや、今学んでいることを二人から聞いて、僕も興味を持ちました。ありがたいことに、僕は慶應義塾大学からも東京科学大学からも合格をいただいたのですが、二人の話をよく聞いて、東京科学大学に進学することにしました。

グノーブルとの出会い

**有賀**：高1になる頃、英語にとっても苦手意識があって、学校の成績も振るいませんでした。グノを勧められたのは、医学部に進学した従兄弟です。春期講習に参加してみたら、とても楽しくて、先生もにこやかに授業も分かりやすく、「この塾に通いたいな」と思い、英語を受講するようになりました。

**上田**：僕は中学受験の時もグノに通っていませんでしたが、国語の先



ありが りょうへい  
**有賀 稜平さん**  
東京科学大医・栄光学園

生に出会ったことで、勉強すること自体に興味を持てるようになりました。それで、「大学受験の時もグノーブルに行けたらいいな」と思っていました。

もともと英語がかなり怪しくて、グノから大学受験の案内が来た時も、「そろそろ塾に行こうかな」と考えていたし、「英語の評判がすごい」と聞いていたので、高2になる前の春期講習を受けてみました。そこで、やっぱり自分が全然できていないことと、グノがその課題解決に役立ってくれることを実感して、入塾を決めました。僕の学校では、グノ生はそれほど多いわけではありません。それでもグノに決めたのは、受験勉強だけでない英語を一から扱ってくれるからです。

**大越：**私は高1の春休みに母からの勧めで入塾しました。それ以前にも、横浜にある大手予備校に通ったことがあります。規模が大きすぎて、先生との距離も遠かったり、質問に行くのも大変だったりして、圧倒されてしまい、塾に行くのがストレスフルでした。

一方グノは、授業もアットホームな雰囲気、先生方はすぐに名前を覚えてくださるし、最初に講習を受けた時から楽しかったので、「この塾

なら、ストレスを感じずに楽しく通えそうだな」と思いました。

**上田：**たしかにグノーブル横浜校は、他の校舎よりもこぢんまりとしていて、指導の密度がすごく高いです。

**大越：**こぢんまりとしている分、先生は熱心に一人ひとりを見てくださるし、個人の進捗状況に合わせて解説して下さるのが心強かったです。

**須賀：**うちの学校は、グノの校舎から近いこともあって、グノは多数派かもしれません。私がSNSに「英語の塾で迷っているよ」と書き込んだら、先に通っていた友達から「グノーブルいいよ」という反応がたくさんありました。同級生の間では「英語に強い」というイメージで知られています。グノに入ったのは高1の9月です。入塾テストが頻繁に開催されているので、途中からでも入りやすかったです。入塾前の夏に少しだけ体験授業に行ったのですが、その時の先生が初回授業で「あの時の方ですよ？」と覚えてくださっていて、印象深く感じました。

**宮里：**私は中学受験で通っていた塾が大好きで、その教育方針と近いことから、グノの体験授業に行きました。数学がとても苦手で、しかも、先生に質問ができないタイプなのですが、グノでは、先生が授業中に回って答案を見にきてくれます。行き詰まっていると、先生のほうから「こうやると解きやすくなるよ」とアドバイスをしてくれました。だから、自分からも質問しやすくなりました。

中3の時に数学で入り、高1から英語と国語を取りました。私の学校にもグノ生が多くいて、その流れもあってグノに決めました。英語に関してはもうグノ一択でした。



すがあかり  
須賀 愛佳里さん  
東大文I・白百合学園

### グノーブルの英語

**宮里：**毎回授業が楽しみでした。あまり「予習をしっかり」とは言われないのも、気が楽でした。グノは、受験のためだけでなく、教材に面白い文章を取り入れることに力を入れているので、「今回はどんな内容だろう?」とワクワクしました。

**須賀：**グノの授業は生き生きしています。グノの先生たちは、「ライブでしか伝えられないことがある。表層的に知識をすくい取ることも、英語の読み方の核心に触れることを優先してほしい」と、熱心に授業を行ってくださいます。それがどの塾よりも、ダイレクトで、インタラクティブな、グノの授業の特長だと思います。

**大越：**グノの授業はいつも「一秒も無駄にしたくないな」という気持ちで受けていました。

私は早く塾に行って、その日の演習に取り組んでいました。「解説が始まるまでに、自分がその時にできる最大限の答案を完成させよう」と必死でした。1回の授業の密度が濃くて、情報量も多いし、内容も深いので、聞き漏らさないよう頑張っていました。

**上田：**僕はサミングアップ\*の授業を大切にしていました。黒板に点数分布が書かれるたびに、「やっぱりみんな、いい点数を取れているな」と感

じていました。僕はうまくいかないことが多かったので(笑)。でも、その原因を解説で探れるのはすごく良かったです。

それから、指名されて答える時、緊張するし、失敗もよくしました。グノの先生はいつも、「うまく行かない時こそチャンス」と言って励ましてくれましたが、やっぱり悔しかったので、それもすごくありがたかったです。

**有賀：**僕は最前列で授業を受けていました。指名された時は「正解したいな」と思うので、緊張感も保てます。休んで、家で授業動画を見たこともありましたが、実際に対面で受ける授業とは迫力も違えば、理解の深さも全く違いました。

### グノーブルの英語勉強法とその効果

**有賀：**まず、語順のまま理解していくのが特徴だと思います。僕も最初は慣れませんでした。慣れると、英文がずっと頭に入ってくるようになり、英語の理解度も変わってきました。

それから、語源から単語を覚える、授業の回を追うごとに英単語をイメージで理解できるようになります。医学部に進学して、新たな医学用語を覚えることも多いと思うので、これから語源からの単語学習を続けていきたいと思っています。

**上田：**僕たちは日本語を読む時、語順の通りに意味を理解するのに、異言語である英語は、遡って読むことがよくあります。これでは、ただ英語を日本語に合わせて訳しているだけという印象です。だから、本当に英語に親しむためには、語順のまま理解していくことが絶対必要だと思

います。

その練習に役立ったのが、GSL\*です。音読は前から読むしかないので、気づいたら語順のままの理解ができるようになっていました。また、音声を聞きながら音読することで、英語力が総合的に底上げされました。

**大越：**グノの英語は、受験対策のために知識を詰め込む授業ではありません。英語が本当に身につくようになります。高1でグノの英語に入った時は、英語の勉強法を分かっていませんでした。だから、グノで言われたことを素直にやってきたのですが、高2で「他の塾の授業とグノは違うのかもしれない」と段々気づき始めました。英語の点数もどんどん伸びて、自分の力になったのを実感しました。

周りには単語帳を2冊もやっている人がいて、それを見た私はちょっと不安になったこともありましたが、でも、単語帳を見せてもらったら、「これはグノでやったことある」という単語ばかりでした。音読していると自然と単語も身につくので、結局、単語帳は使いませんでした。

**須賀：**東大入試では、和訳の柔軟性が問われます。以前は、単語帳を使い、英語と日本語を1対1で対応させるように覚えていたのですが、それでは氷山の一角と同じで、単語が持つ意味の一部分しか理解できません。

グノの英語では、隠れている残り90%の意味も、先生が、いろいろな動作までして教えてくれるので、和訳の幅がぐんと広がりました。

例えば、strategy = 「戦略」と覚えるのではなく、「將軍が軍隊を指揮する戦い方」というコアイメージを持っていれば、ビジネスや政治、社会活動など、様々な分野に応用が

できて、文脈にぴったりの日本語を選べるようになります。

先生方の頭の中をスキャンしたら、ものすごい量の英語が、有機的につながって詰まりまくっていると思います。そこから学んだことを、今度は自分も英文に向かう時に体現しようと心掛けていました。

私は最終的には「英語は栄養たっぷりの飲み物だ」を掲げて勉強するようになりました。その消化を助けてくれるのが音読だと思います。先生がおっしゃる通り、英語のスピーチコンテストで優勝するつもりで音読しました。

ある時先生から「GSLがそろそろ遅いと感じるようになってきたでしょう?」と言われました。「先生がGSLの2倍速で英文を読んでいるのなら私も」と、そこを目標に頑張るようにもしていました。

**宮里：**東大の英語はすごく時間がシビアで、私はずっと解き終わりませんでした。語順のままの読解と音声教材をずっと続けていたら、直前期になって、ちゃんと時間内に終わるようになりました。

語順のまま読むと、1回戻す動作がなくなるので、遡って読むより速く読めます。私は音声教材に合わせて読むのが苦手でしたが、何回も繰



おおし みお  
大越 美緒さん  
東大文I・フェリス女学院



みやざと さつき  
宮里 早月さん  
東大文II・女子学院

\* SUMMING-UP LABORATORY: 高3の英語(読解)で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答案は担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的レベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

\* Gnable Sound Laboratory: 中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法(ワークアウト)も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

り返していくと、ちゃんとスピードに合わせられるようになりました。

音声教材に慣れると、ネイティブの人が喋るスピードで英文を理解できるようになります。私は1日に3回音読して、それで「読めないな」と思ったその日は諦めて寝てしまい、次の日にもう1回やるとできるようになっていることがよくありました。もしかしたら、寝ている間も頭の中で音声の流れていたのかもしれない。

### グノーブルの要約

**宮里：**サミングアップはずっと苦手でしたが、でも、時々すごくうまくいく時があって、普段は点数が悪いからこそ、それがすごく嬉しかったです。

同じくらいの手応えでも点が取れずに考え込んでいた時、先生から「文全体の構造を俯瞰的に考えてください」と言われ、それが大きなヒントになりました。サミングアップに真剣に取り組んでいたことは、総合的な読解力の向上につながったと思います。

**須賀：**東大の1Aは要約問題で、赤本や予備校の模範解答に“流派”があると思っていました。解答を比較してみると、解答例にばらつきやずれがありました。ある解答には含まれている要素が、別の解答には含まれていないというように、複数解答が存在することが納得できませんでした。いくつかの文章を解体して、色分けして、「この言葉はこの文章の中でどういう重要性があるのだろうか？」と徹底的に比較していました。

その中で、グノの先生は「読む時に筆者との対話を大事にする」とおっしゃっていました。その発想で見るとたしかに、先生の解答は言いたいことの核心をちゃんと捉えた答えに

なっていることに気づいて、最後には「この答えしかないだろう」と思えるようになりました。グノの解答の要素は他の解答例にも大体含まれていて、精度がすごく高いです。

それから、私は「どうしてグノは要約をそこまで重視するんだろう？」とずっと不思議に思っていました。でも、東京大学の過去問を解く中で「要約力はすべての底力なんだ」と強く実感して、グノの授業はすごく合理性があると気づきました。

私は東大対策のつもりで要約の授業を受けていましたが、早稲田や慶應の英語でも結局は要約に帰着しました。どれだけ長い文章でも、パラグラフごとに内容を的確に要約して追えないと話になりません。

**大越：**文全体の構造をきちんと把握しながら読むことで、私的的な要約をする力がつきました。要約を始めたばかりの時は、読めているつもりなのに全然点が取れず、「どうしてだろう？」とよく悩みました。

でも、メインセンテンスとサポーティングセンテンスの関係が分かってくると、長文を漫然と読むのではなく、「これはメインで、これはサポーティングだ」と考えられるようになりました。

サミングアップの答案を提出する時には、私は何日かに分けて答案を見直して、俯瞰的というか、ある程度、客観的に自分の答案を見直すようにしていました。

**上田：**サミングアップについて、「段々できるようになっていく」と言う人が多いですが、そんなに簡単ではありません。内容がどんどん難しくなっていくので、自分のレベルが上がっても、点数が変わらないことがよくあります。英語力全体の向上は言うまでもありませんが、背景的な知識も、論理力も、生き生き読むための想像力も必要です。サミングアップは、英語だけでなくいろいろな学問の土台になったと思います。



**有賀：**僕も上田君と同じで点数がなかなか伸びませんでした。毎回「これだけしか点が取れてない」という感じで、模範解答と見比べて「僕的答案と何が違うんだろう？」と徹底的に検討したり、解いている間にどう考えていたかを思い出したりしながら、できるだけ文章全体の意味を捉えて要約できるように頑張っていました。

ただ、毎回サミングアップに前向きに取り組めたこと、そこから学ぶべき点が多かったこと、総合的に力を伸ばせるツールだったことは、自分の中で大きかったです。

### 「知」が凝縮された英語教材

**有賀：**教材の質がとても高いと思います。特に高3の教材は、内容的にかなり難しいものが多いのでだいぶ苦戦もしました。でも、それ以上に、興味がそそられる内容だったので本当に楽しくて、今でも時々読んでいくくらいです。

**上田：**日本語で読んでも「ああ、なるほど」と思える内容が多くて、英文を読むことを面白いと感じました。それがモチベーションにもつながりました。どんどん教材のレベルが上がっていくので、それに合わせて、全体の学力が引き上げられます。

**大越：**純粋に読み物として楽しめる内容が多くて、授業も楽しかったですし、家に帰ってから家族に「今日のグノの英文はこんな内容だったんだよ」と話すくらい印象的でした。

**須賀：**自分の中でつらかったのは、

教材の内容が面白すぎて、知的好奇心を刺激されるのにそれを追求する時間がなかったことです。やらなければいけないことが山のようにあるのに、グノの英文を読んでいると一つひとつ深く考えたくになります。直前講習で扱われた「The Evolution of Everything」の英文も強く印象に残っています。

**宮里：**英語の長文は文系理系を問わない内容が出ます。文系科目の勉強が続いている時に、急に人体や科学などの話題に触れると、今まで全然使っていなかった脳の部分がパッと活性化されて、ちょうどいいリフレッシュになりました。

あとは、教材の内容がとても面白かったので、授業が延長しても、全然気にならないくらいでした。

### 「グノーブルの英語」で 変化したこと

**宮里：**私は1年間アメリカにいたことがあるので、英語に対する抵抗感はありません。自分で英語の文章を読むこともあったので、英語を単なる「勉強」とは思っていませんでしたが、グノに通うようになってから英語は「かなり面白いもの」という位置づけに変わりました。

生活の中で英単語を見るたびに「この語源は～だな」と思うくらい、日常に英語がある状態が当たり前になりました。日本語の考え方でなく英語の考え方が日常の中で頭に浮かぶようになって、前向きで外交的に変わったと思います。

**大越：**以前は、分からない単語があったら辞書で調べて、日本語の意味を文章に当てはめて読み、分かったような、分かっていないような感じでした。

でも、グノに入ってから、英語

のまま英文を読めるようになったし、語源から単語の微妙なニュアンスなども理解できるようになりました。もともと英語が嫌いではありませんでしたが、グノに入ってから、自分の英語力のなさにも気づかされた一方で、どんどん成長できて、どんどん英語が読めるようになっていって楽しかったです。

**上田：**グノでは、高1の終わりに受けた入塾テストでコテンパンにやられて(笑)。でも、それがスタートになりました。グノで長い文章を見ただけで「今日は無理だ」と諦めそうになるところから、「どんなことが書いてあるのかな？」と興味をそそられるところまで成長できたと思います。

**有賀：**僕も最初は、英語が「読めないし、分からない」という感じで、入塾当初は基礎のクラスにいました。高1の前半までは、英語の文章を読もうとするだけで、なんとなく抵抗を感じていましたが、最近は自分から海外の記事を読むくらい、英語好きになりました。

**須賀：**グノに通ううちに段々と「英語が私の土俵に乗ったぞ」と感じるようになりました。英語は頻繁に触れていないと、一度身につけた感覚を忘れてしまうこともあります。でもグノーブルでは、週に1回、5～6時間は英語にガッツリ触れる時間を取れます。GTECという英語の試験でも、1分間に読める速度がどんどん上がっていきました。段階的に、まさに evolution という単語のイメージみたいに、雪だるまがころがっていくに従って成長していく感じで変わっていったと思っています。

### グノーブルの数学

**大越：**私は数学が本当に全然できな

くて、初見の問題に対しては、手が止まってしまいうタイプでした。でも、グノの数学は問題をテーマごとに分けて、そのテーマに沿った処理手順を教えてくださいます。

以前は、問題集の解法を暗記してしまうことが多かったのですが、グノに入ってから、問題の構造を考えるようになり、初見の問題も、応用問題にもちゃんと対応できるようになりました。

セルフチェックシート\*もすごく良かったです。私は以前、解けた問題も解けなかった問題も、自分が分かったところだけ日本語と数式で書いていました。でも、セルフチェックシートを使うと、自分の解法を客観的に捉え直す機会になって、自分の論理の破綻や矛盾点に気づけました。あとで提出するので、「先生に伝わるように」と意識するのも効果的でした。これを続けることで、論理的に数学を解く力が身につきました。

**宮里：**グノの数学は、解法そのものの説明ではなく、私たちが自分で解法を選択できるようになるための解説が多いです。私はパッと思いついた解法で書き始めるタイプだったので、解説で「他にもこういう道があるよ」と示していただけたことで、自分の解き方を客観視できるようになりました。最初に自分で選んだ解法が、模範解答ではなかった時、今



\*セルフチェックシート:高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。



### グノーブルの先生

**宮里：**グノの先生はとにかくエネルギーがすごかったです。私は一人になると考え込んでしまって、テンションが下がってしまうタイプです。だから、定期的にグノに来ることで先生からエネルギーをもらって、次の週まで生き延びていました。

それから、勉強以外にも知的な好奇心をずっと刺激していただいたのが一番大きかったです。どの先生もすごく教養があって、担当教科のことだけでなく、世界史や美術にも詳しい方が多いので、「こういう大人になりたい」とロールモデルにしていました。

**須賀：**グノについて端的にまとめると、「教養があって尊敬できる人生の先輩と一緒に、大学受験の先まで役立つ考え方を、あくまでも大学受験という枠の内側から学べる塾」です。

先生が持っている教養と一緒に学べることで、各教科の学習効果も高まるし、先生に教わったことは、受験が終わったあとも印象に残ると思います。

**大越：**グノの先生は生徒以上に情熱的な方が多くて、本当に熱心に授業をしてくださいます。生徒の名前もすぐ覚えてくださるから、「一人ひとりを大切にしてくださっているな」と実感します。人間的にも魅力的な方が多くて、先生に会いに行くのが楽しみでした。すごく教養が豊かで、本当に面白くて、「こんな素敵な年の重ね方をしたいな」と思わせてくれる先生方です。

**上田：**グノには何人も印象に残っている先生がいます。先生方には、学力を伸ばす下地をつくっていただけました。授業中に集中できる活力、素晴らしい教材や解説を提供してもらえました。本番では自分で納得で

を分析して、ひたすら問題を解いて、自信を回復したこともあります。

良くなって、第一志望の中学を受けませんでした。だから、大学受験の時もまた同じことをしたくなくて、「何としても第一志望を受けに行かないといけない」と自分を奮い立たせました。

2つ目は、グノの授業が楽しかったことです。英語はもとより現代文も楽しすぎて「これからも、理系も文系も混ぜこぜの内容で学際的に学びたい」と思えたおかげで、「東大しかない」というモチベーションを維持し続けられました。

3つ目は、大好きな音楽です。音楽の歌詞にはたくさん救われました。

英語の先生が「今失敗しておいて良かった」「失敗したところから出る芽は何より強い」とおっしゃっていた言葉が支えになりました。しかも、先生方は毎日すごいスピードの授業を展開され、私たちより頑張っている姿にはいつも励まされていました。精神的にもグノに頼っていたと思います。

**宮里：**長期的にモチベーションをなくすことは、あまりありませんでした。ただ、夕方や、ご飯を食べ終わってひと区切りついたあと、勉強のやる気が出ないことは多かったです。そんな時は、英語の音読をやっていました。とりあえず机の前に座るきっかけになるので、勉強のスタートには役立ちました。

あとは「受験が終わったら絶対にパフェを食べる」「美術館に行く」などやりたいことを書いて、専用ボックスに入れておき、それを見返すことでモチベーションを回復していました。

成績が落ちると自信はなくなりません。そういう時、私は人の励ましも聞き入れられなくなるのですが、1日部屋に籠もって泣くと大体落ち着きます。そのあと外に出て、川に行ってお風呂に入るなどして、徐々に回復していきました。「自分のどこが悪いのか?」「何ができないのか?」

です。僕は、先に受けた私立の問題も復習に使いました。それをやっていたおかげで、東京科学大には自信を持って臨めました。

**上田：**受験生はみんな、成績が悪い時に自信をなくすと思います。そこで諦めないのが本当に大事です。自分が何とか最後に合格できたのは、学力よりも、諦めない気持ちがあったからだと思っています。

高校3年生になれば、合格に対する危機感も募ると思いますが、下の学年だとまだモチベーションがない人も多いと思います。そういう時は、「英語を勉強して損になることは1つもない」と考えて、ちょっとでもいいから勉強に向き合っていくことが大事だとお伝えしたいです。

**大越：**受験は長期戦なので、ある時に頑張りが過ぎたら、次に疲れてしまうこともあります。ずっと全力でやるのは無理だと思うので、「今日は疲れたな」と思う時は、割り切って休憩したり気分転換したりすることが大切です。

私はグノに来て、先生方に会ったり授業を受けたりすると、自然とやる気が湧いてきました。長期休暇の時は、タームごとに3科目取り、同じ科目が重ならないようにスケジュールを組んで、常にグノに行っている状態をつくりました。自信がなくなって先生方に相談した時、絶対にマイナスなことを言われることはありません。ひどい成績でも「大丈夫だ」と背中を押してくださったのが本当にありがたかったです。先生が覚えてくださるポジティブな言葉を胸に、頑張っていました。

**須賀：**私はクリスマスの時期に「やっぱり東大は無理です」と、先生に相談しながらポロ泣きしたこともあります。

この状況を切り抜ける上で助けになったことが、3つあります。1つ目は、中学受験の時を思い出したこと。私は当時、直前でどうでも

たいで、時には授業が1つの舞台作品のように感じることもあります。先生は、荒波を分かちモーセのように鮮やかに、文章の中の点と点を論理的につなぎ、解答を導いて見せてくれました。舞を舞うように軽やかに、かつ論理的に国語の面白さを伝えてくださる先生に出会えて、本当に良かったと思います。

**大越：**高2の夏から古文を取りました。私は文転したのでもともと古文を全然やっていなくて、特に文法が苦手だったのですが、板書では品詞ごとにチョークの色を変えて説明してくださったので、とても分かりやすかったです。

『お帰り問題』では、古文を全訳しなければいけない」と最初に聞いた時は衝撃的でしたが、それで力がつきました。高3の東大国立国語ではずっと過去問に取り組むことができたので、気づいたら実力が伸びていました。国語は二人の先生に担当してもらい、論理で詰める感じがすごく分かりやすく教えてくれる先生と、いつも優しく励ましてくれる先生で、それぞれに個性がありました。その先生の授業を受けるためだけに新宿まで通うくらい好きでした。

### スランプを乗り越える方法

**有賀：**自分のメンタルが辛い時は、友達に相談することが一番多かったです。直前期など、直接会えない時は、電話などで乗り越えました。一番つらかったのは、私立の入試で力を出せなかったと感じて、今まで自分がやってきたことが報われないのではないかと不安になった時です。この時に役に立ったのがグノの授業で読んだ文章の「自分の不安なことを実際に書き出してみるといい」という一節です。これを実践してみたことでかなり立ち直れました。

英語に限らず、やはり復習が大事

まではすぐに×をつけていたのですが、少し工夫すれば別解と同じやり方になると分かって、粘り強く数学に取り組めるようになりました。

セルフチェックシートは「この言葉で先生に伝わるかな?」と考えながら書いていると、すごく時間がかかります。でも、問題を解くプロセスを言語化することで、忘れることがなくなり、「思いついた解法で書き始める」という自分の癖を修正できるようになりました。

### グノーブルの国語

**宮里：**国語は特に、先生と距離が近かったような気がします。先生の雑談は、話が脱線したように見えて、最後には授業の内容に帰着するので、とても楽しく授業を受けられました。

**須賀：**国語の授業では、先生の人生経験や主観も織り交ぜながら文章を読むことが多いと思います。他塾でも国語の授業を受けたことがありますが、グノの国語は感情と論理のバランスが一番良かったです。先生の体験談も交えつつ、クリティカルに読解していくので、文章の面白さを味わいながら、論理的に文章を読み解ける授業でした。

どれだけ難解な文章でも、漫画など身近な話に紐づけてくださり、笑いや交えた授業がとても楽しかったです。先生の音読はミュージカルミ



きる解答が書けるところまで成長させてもらえました。とても感謝しています。

**有賀：**グノのいろいろな先生に教わってきましたが、共通するのは、情熱的でエネルギーがすごくて、優しく、疲れているはずなのに、いつ質問しても、本当に優しく答えてくださってありがたかったです。講習で何度かお会いしただけの先生も、ちゃんと名前を覚えてくださっていました。

僕が高1で入塾した時は、今とは比べ物にならないくらい英語ができませんでした。直前期になって、その当時担当だった先生が「とても成長している姿を見られて嬉しいです」という言葉をかけてくださった時は、ちょうどメンタル的にもきつかったこともあり、本当に泣きそうになるくらい嬉しかったです。

### 後輩へ伝えたいこと

**有賀：**一番痛感しているのは復習の大切さです。やってきたことを何回も何回も繰り返して、自分の体に染み込ませるくらい復習して、全力を尽くせば報われると思います。頑張ってください。

**上田：**授業の振替制度があったのはすごく良かったです。僕はサッカー一部の活動があり、メインで通っていた横浜校では、土曜日の授業が受けられませんでしたが、でもその分を、新宿など別の校舎で受けることがで

き、すごくありがたかったです。だから、部活をやっているけど全然大丈夫だよと伝えたいです。

また、音読はぜひやってほしいです。確実に英語力が上がります。

それと、合格に必要なのは学力と精神力なので、そこを大事に頑張ってください。

**大越:** まず諦めないことが大切です。諦めてしまったら終わりです。「自分なんか受かるのか?」と思うことも多かったのですが、それでも諦めずに努力できる環境がグノには整っています。先生の指導に従って、音読をたくさんやったり、つらいことや不安なことはすぐに相談したりし

て、グノと一緒に受験を乗り越えてください。

**宮里:** 私が一番グノで感じたのは、音読が大事だということ、これは皆さんもそう思っているはず。それから、先生の言うことは素直に聞いたほうがいいと思います。

**須賀:** 私の場合、まさか受かると思っていなくて、合格通知が届いても、3日ぐらいは信じられませんでした。「人事を尽くして天命を待つ」といいますが、「人事を尽くせたのか?」と疑問を抱いてしまうこともよくありました。ダメな日が途中にあっても、常に「自分は受かる」という信念を持って、やっぱりグノを信じて頑張りたいと思います。



### 中学受験グノーブル 高橋先生 から上田くんへ

上田くんは6年生の夏休み前までサッカーを続けていたため、土曜の授業は休んでいたのですが、休んだ授業の教材は毎週欠かさず自宅で学習し、上位の成績を保っていました。高校で学園祭の実行委員になり、ポスターを貼らせてほしいと横浜校にふらっと現れた際に、「勉強はどうだ」、と声をかけたら、「英語はそろそろちゃんとやらないといけないと思って大学受験グノーブルに通い始めました」とさやかに答えてくれたことを覚えています。相変わらずマイペースだけど、押さえるところはきっちり押さえられる子なんだな、と感心した記憶があります。これからも我が道を邁進してください。陰ながら応援しております。



(左から)  
はまだりりか  
濱田 莉々果さん(東大文I・日比谷)  
きむらはるか  
木村 陽香さん(東大文I・日比谷)  
いちげしんたろう  
市毛 慎太郎さん(東大理I・開成)

本文中敬称略

### 東大で夢を広げたい

**市毛:** 学校では天文気象部に入っていて、高1の時に気象予報士の資格も取りました。気象の研究をするなら国立大学がいいと聞き、東大に行くことにしました。

気象大学校という、気象庁の職員になれる学校も併願していたくらいで、将来は気象庁の職員など、気象に関する仕事を目指したいです。ただ、「具体的すぎて道が狭いよ」と親にはよく言われています。

**木村:** 私はまだ、学びたい分野が明確に定まっていません。東大だと、入学から2年間は前期教養学部として幅広くいろいろな授業を取りながら、やりたいことを見つけられます。それがすごく魅力的だと思って東京大学を目指しました。

**濱田:** 私木村さんと同じで、将来のことはまだはっきりとは決まっていません。弁護士をしているおじとお婆の

姿を見て漠然と「法律関係の仕事に就けたらいいな」と思っていました。二人が東京大学で学んでいたということも、東大に進んだ理由の1つです。

### グノーブルとの出会い

**濱田:** 私は高2から、他の予備校に通っていました。ただ、授業が自分のためになっていると思えなくて、短期間でやめてしまいました。そこで新しい塾を探している時に、木村さんが「すごく熱心でいい塾だよ」と紹介してくれてグノに興味を持ち、高2の冬期講習から通うようになりました。

**木村:** 私高1の時は他塾で数学を受講していました。でも、お世話になった先生が異動になったので、新しい塾探しの旅に出ました。この時、姉の代でグノを強くお勧めしてくれた方がいたので思い出して、親が「体験授業に行ってみたら?」と勧めてくれました。

それで、高2の6月に数学の授業を受けてみて「グノの授業は革命的だ!」と思いました。「数と式」の授業でしたが、学校では習わなかったフレームワークを提示してくださって、「数学はこうやって解けばいいんだ」と感動しました。「他の単元もこの先生に教わりたい。この人についていこう」と強く思って入塾を決めました。

最初は、数学だけでした。でも、やっぱり英語が強みの塾でもあるので興味はあり、冬期講習を受けてみたら

すごく良かったので、そのまま英語も継続しました。

**市毛:** 3つ上の従兄弟がグノで英語を受講していて、「すごく面白い」と勧められました。それで中3の秋に入塾テストを受けたのですが、最初は落ちてしまいました。そのあと冬期講習でEGGS\*を受講して、次の入塾テストで合格できたので、そのまま高1から英語を受講し始めました。

中学生の頃、周りの友達が塾の宿題に苦労しているのを見ていたので、他塾にはあまり興味を持ってませんでした。

### グノーブルの英語

**市毛:** 授業中の解説が先生とのやりとりで進むので、「ちゃんと準備していこう」という気持ちで通っていました。授業内演習に集中して取り組めば、解説から学べることも増えます。

**木村:** 英語の授業内演習はすごく緊張感があり、毎回「頑張るぞ」と気持ちを新たに受講していました。

同じ課題でも、宿題だと家でのんびりやっけてしまい、身が入りませんが、授業だと全員で一斉に同じ問題を解くので、周りの進み具合を肌で感じられます。自分が遅れていると「頑張らなきゃ」と思い、早めに出せると「今日は調子がいい」という気持ちになりました。

**濱田:** 高2の途中まで通っていた他塾



いちげしんたろう  
市毛 慎太郎さん  
東大理I・開成

\* English Grammar Green Session for newcomers : 季節講習(中3冬期~新高3冬期)で行われる、基礎力を固めたい方を対象にした、独自のメソッドによる英文法基礎講座。

では、先生が授業中解説をするだけで、演習は家で各自がやるものでした。

グノでは、先生が一人ひとりの答案をよく読んで、ちゃんと添削して返していただきます。それで、できていないところを詳しく解説して下さるので、理解が深まりました。



きむら はるか  
木村 陽香さん  
東大文I・日比谷

む力を伸ばすには、すごく理に適った指導だと思います。

**市毛**：単語帳を使わないことへの不安はあって、知らない単語をメモするのに単語帳を使っていました。

でも、グノの授業で語源と一緒に教わった単語は、単語帳でパラパラ見るよりも詳しく覚えられます。語源の手がかりがあると覚えやすいですし、単語帳に載っていない意味で使われている場合でも対応できるようになります。1つの単語から得られる情報量も圧倒的に多くて、単語を単体で暗記することで同時に覚えていきました。

**木村**：単語帳は、学校の課題になっていたもので、多少はやりました。でも、グノの授業のほうが効果的だと思います。1つの語源でいろいろな単語を押し入れられるのがすごく良かったです。  
**濱田**：語源さえ押さえておけば、単語を見るだけで「恐らくこういう意味だろう」と応用して考えられるようになり、英文をスラスラ読む力もつきました。

私はグノの勉強法になかなか慣れなくて、高2の冬まで、音読もあまりできていませんでした。でも、授業を受けて、英語力が高まっていくのを実感したので、高3で音読を本格的に始めました。音読は、授業で解説されたことが蘇ってくるので、復習にもなります。

声に出すことで、苦手だったリスニングの力も上がりました。音読で詰まってしまうところは、リスニングでも聞き取れなかったり、黙読でも詰まってしまうので、それが明確化されるのが、音読のメリットだったと思います。

**木村**：私も高2の時は、音読をおろそかにしていました。でも「心を入れ替えなきゃ」と思い、高3に入ってから音読をやり始めました。音読は声に出すことに意識が向かうので、頭の中で英文を日本語訳することはできません。だから、日本語を挟まず、英語を英語のまま理解するという感覚が身につきます。

**市毛**：僕も高2までは音読を全然やっていませんでした。でも、高3になってサミングアップ\*のプリントをクリアファイルに入れてお風呂で読むのを習慣にしたら、段々効果が実感できて、「もうちょっとやろう」とモチベーションも上がりました。

音読をすると、英語に慣れて、読むスピードが上がると思います。

**木村**：先生はよく「英語を読むことに必死だと、読解ができなくなってしまおう」とおっしゃっていました。音読を続けることで、英語を読むことに対する抵抗感がなくなり、その分読解を頑張れるので、点数が伸びると思います。

**濱田**：音読すると、毎日英語に触れら



はまだ りりか  
濱田 莉々果さん  
東大文I・日比谷

れます。最初は、家族に聞かれるのが恥ずかしかったのですが、先生に「人に発表するような気持ちで音読しよう」と言われてからは、それを実践するようにしました。きちんと身を入れて音読すると、復習にもなります。

### 「知」が凝縮された英語教材

**濱田**：面白い文章も硬い文章もあり、内容としてもすごく充実していました。グノの教材は、日本語で読んでも興味深い教材ばかりで、復習にも身が入りました。解説を聞くと、「なぜこの例が載っているのか？」など、英文の本質まで理解できます。

**木村**：教材として扱う小説を読んで、「自分とはかけ離れているけど、こんな考え方もあるんだ」と感じることもありました。文化の違い、立場の違いを超えて感じられるのは、国語の読解にも共通するところがあって、すごく楽しかったです。

**市毛**：内容的に難しいものが多くて、日本語でもよく分からない文章もありました。授業中に理解しきれなかったところも、家で音読していると、段々分かってきて、「先生が言っていたのはこういうことだったのか」と腑に落ちることがありました。それが楽しかったです。

### 「グノーブルの英語」で変化したこと

**市毛**：確実に変化はありました。何より、英語に対して抵抗感がなくなりました。以前は英文を見るだけでも「ウゲッ！」という状態だったのが、面白い内容の英文にたくさん触れて、自分から「読んでみよう」という気持ちになることが増えました。

**木村**：かなり成績が伸びました。以前は英文を読む時、途中で何を言ってい

るのか分からなくなり、最後まで読み終えられないこともありました。

グノの授業では、段落ごとに書かれている内容や、その段落が文章の中でどういう役割を果たしているかを確認しながら、解説していただきます。そうやって読み進めていくと、途中で、最初に戻ることはなくなるので、文章の読み方も変わりました。語順のまま読むこと、分からない単語で止まらないことなどを意識することで、英文を読みやすくなって英語力が伸びました。

**濱田**：グノに通う前は、英語は暗記教科だと思っていました。単語を覚えて、文法を覚えて、それを組み合わせで頑張っていたイメージでした。

グノに通い始めてからは、語源で単語の意味をつかんだり、語順のまま読んで理解したり、受験のあとにも応用できる英語力がつきました。もし、暗記だけで学んでいたなら、数年後には忘れてしまっていると思います。

**木村**：グノの英語は「無理やり頑張らなきゃ」というプレッシャーが強くなって、先生方も生徒の自主性に任せていただきます。だから、英語学習を苦い思い出にせず、楽しい記憶として残すことができました。これからも、勉強のためというより自分が楽しむためのツールとして英語を使っていくことができると思います。

**市毛**：グノには、「入試で点数を取ろう」というより、「学問を深めよう」という雰囲気が全体的にあります。そこが僕の好きなところなんです。

### グノーブルの数学

**市毛**：先生が膨大な量のプリントをつくっていただきます。注意すべきところにはマークをつけるなど、すごく分かりやすく、数学の問題を解く上で手

助けになりました。参考書の解説をただ読むよりも、サッと頭に入ってくる教材でした。

セルフチェックシート\*を使うと、1つの問題を深く復習できるのがいいと思います。間違えたところを自分で整理することで、次の問題を解く時の手がかりにもなります。

**木村**：高3のテスト演習に入るまで、先生は板書を使って「どう考えるか？」という思考回路の部分を詳しく言語化していただきます。独特な言い回しが多いのですが、分かりやすくて良かったです。

テスト演習に入ってから、「感想戦（セルフチェックシート）」というプリントが課されます。そこで、「どうしてできなかったのか？」の原因分析と、「今後こうしなければいけない」という対策を、自分で考えてまとめて提出し、先生がそこにコメントをつけていただきます。あまり向き合いたくない自分の愚かさを全部書き出して先生に見せなければいけないので、少し「嫌だな」と思うこともありましたが、でも、自分の弱点が整理されるし、復習という意味ではすごくいい学習方法だったと思います。

**濱田**：木村さんの影響で数学を受講しました。まず、問題に「タグ付け」をして「この問題で聞かれていることは何か？」を自分で把握します。次に、それに対する「対処タグ」を使い、解法を絞り込んでいきます。そうやって考えることで、初見の問題でも解ける

\* SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答案は担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「読解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

\* セルフチェックシート：高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。

応用力がついたと思います。

以前は、図形などひらめきが重要な問題が全然できなく

で、「これは数学に強い人じゃないと解けない」と思って捨てていました。でもタグ付けをして考えると、図形ごとに考えられる選択肢を見つけて、解法を絞っていくことができ、問題に取り組みやすくなりました。

**木村：**タグがあると初手の動きを間違えることが少なくなります。それまでは、与えられた式をとりあえず変形して、手計算して、「頑張ったから、これでいいか」みたいになっていました。でも、タグで分類して対処タグで動くと、初手を外さないから、方針を述べるだけでも部分点がつきやすくなります。

また、実数処理は、全部が網羅できていることが大事だということをよく強調されていました。そういう受験の数学戦略も教えていただき、しかもそれがいつも論理的だったので、「すごい」と思っていました。

**市毛：**方針を設定する最初の時点で間違えないように、「こういう問題を見たらこうだね」と反応する感覚を鍛えてもらいました。

### グノーブルの国語

**市毛：**「現代文の文章を理解するには、例を挙げて考えるのがいい」という話をされていました。実際に先生が、具体例として挙げてくれる話が面白いので、引き込まれて、すごく楽し



く授業を受けられました。現代文も好きになれたし、読解にも役立ちました。

**木村：**現代文の解説では、その文章のテーマを抽出しながら、「他の文章でもこういうのはよくあるよね」という「現代文あるあるテーマエッセンス」を教わりました。おかげで、難解な文章でも、何となく読み取ったテーマを手がかりに、話の流れをつかめるようになりました。

それから、授業中に歌を流してくださった回もありました。「時には肩の力を抜くことも大事だね」という文章の具体例として、東大の偉い教授が急に歌い出したという歌を、実際に紹介してくれたんです。「本当に自由を体現している授業だな」と思ったら、本当に肩の力も抜けました（笑）。

**濱田：**少人数のクラスで、一人ひとりの添削をちゃんと見てくださった印象があります。宿題を提出すると、問題演習中に添削してくれて、解説が終わったあとに自分でもう一度書き直す時間が設けられ、再度添削をしてくださいます。自分で復習するだけだと、答えを見て書いて満足してしまいが、2回の添削で、自分のどこができなかったのが明確になります。授業が答案をつくる力を鍛えるのに直結していたと思います。

### グノーブルの物理

**市毛：**東大の理科はものすごく制限時間が短いので、速く解くことにフォーカスしがちです。でも、グノの物理は演習時間が長くて、実際の試験時間の倍くらいあります。だから、普段は「この時間で解けないならいいや」と諦めてしまう問題も深く考えることができ、物理の実力向上につながりました。演習をしたあと、そのテーマについて先生が生徒を当てて質問をするのですが、物理の本質に関する問題が多くて、その時間が僕は好きでした。

### スランプを乗り越える方法

**市毛：**直前期に、過去問で全然点を取れなくて焦ったことがあります。その直後に、国語の直前講習を受けたら、すごく元気になりました。授業で、先生方から活力をいただいている感じがして不安を乗り越えられました。

**木村：**私は11月の秋模試のあと、数学が心配でした。これまで数学を頑張ってきたのに、全然できないことがすごくショックで、「もう無理かも」と思いました。授業でも、やったことができていかなかったりすると、容赦なく指摘を受けます。逆に、うまく解けると、「これはいいですね」と言われて、その時はすごく嬉しくなります。感想戦の時に「できました」と書くと、「おめでとう」と、すごく可愛い顔文字がついていたこともあります。褒められたい気持ちがあったから、「もう少し頑張るか」と思うこともできました。

**濱田：**直前期に学校もなくなって、今まで一緒に勉強していた同級生とも会えず、家の中にいることでモチベーションが下がって、すごく不安になりました。グノの授業は短期集中ではなく、直前まで普段と同じように毎週続きます。国・数・英全部の授業で、直前期でも容赦ない点数が返ってきて焦りますが、だからこそ「頑張らなきゃいけない」というやる気が出て、家でも頑張れました。英語は演習のたびに、何点が何人という得点分布が黒板に書かれるので、「自分の上にはたくさんいる」と思って、やる気を出しました。落ち込んだ時は、国語の先生に相談していました。

### グノーブルの先生

**濱田：**どの先生もまず授業がすごいです。熱意があって、生徒一人ひとりをちゃんと見てくださっています。だからこそ、「自分もちゃんとやらなければいけない」「言われたことは次から



はできるようにしたい」と頑張る気持ちになれます。

**木村：**雰囲気自由で柔らかい先生も多く、授業がすごく楽しかったです。先生方は私のやる気を引き出すのがうまくて、どの教科の先生もいい答案を出すと「Good!」「Very Good!」と、褒めてくださいました。それが嬉しくて、「褒められるために頑張ろう」と思いました。

**市毛：**緊張感がある中で演習に取り組むことで、成長できました。添削では、先生に一人ひとりちゃんと見てもらえます。添削のコメントでは、「粘り強く」と10回くらい書かれましたが、それを見て「粘り強く頑張ろう」と思えました。

他塾の人たちと数学の問題などについて話しても、遜色のないレベルで学べていたことを実感しました。

### 後輩へ伝えたいこと

**市毛：**僕は、お風呂の中や、まだ家族が起きていない朝の時間に音読していました。そうすると、恥ずかしくないですし、生活習慣的にもメリットがあるので、ぜひお勧めしたいです。グノは英語が有名な塾ですが、英語以外の科目もぜひ取ってほしいと思います。

**木村：**グノは授業もテキストも質が高くて、1個1個を頑張ればすごく力がつきます。言われた通りにやることをやって、授業を受けて、そのまま頑張れば、何とかできます。だから、グノを信じてついていきましょう。

**濱田：**グノは一人ひとりを見てくださいます。生徒の状況を踏まえた解説が

あるので、苦手な部分もちゃんとカバーできます。予習よりも復習が大事で、英語はしっかり音読しましょう。数学や国語も、授業でやった問題をそのままにせず、解説をよく思い出して復習してほしいと思います。

19期生  
PART  
6  
合格者インタビュー



(左から)  
たつみしょうた  
**辰己 翔太さん**(東大理I・駒場東邦)  
ひろせ  
**広瀬 けやきさん**(慶應義塾大文・頌栄女子学院)  
ふじわら けいすけ  
**藤原 圭佑さん**(東大理I・麻布)  
おがわ そうすけ  
**小川 蒼介さん**(順天堂大医・世田谷学園)

本文中敬称略

進学先に夢を託して

**小川**：僕が医者を目指すようになったのは、中学2年生の時に、同級生の友達が急病で亡くなったことがきっかけです。

医学部のある大学は全国に数多くありますが、その中でもトップレベルの国試合格率を誇る順天堂大学を志望しました。順天堂大学の学是は「仁」で、誰にでも慈しみの心を持つことを大事にしています。医学を学ぶだけでなく、一人の人間としても大きく成長できていると思っています。

**辰己**：東大を目指した一番の理由は、高校で学んだすべての教科に興味があったからです。理数系は特に、同じ学問でも高校と大学では内容の違いが顕著なので、教養学部前期課程の2年間で、幅広く学んでから進路を決めたいと思っています。

**広瀬**：私の高校は慶應に進学する人がとても多いため、自分も慶應に憧れを抱いていました。慶應の文学部では、1年生の時に言語の授業を中心に幅広い分野を学び、2年生で専攻を決めます。

まだ明確な目標はありませんが、「何か国際的な仕事をしたい」と思っている私にピッタリの学部だと思いました。

**藤原**：高2で志望校について本格的に考えた時に、「まだ可能性を絞りたくないな」という思いがあったので、進路選択まで2年間の猶予が与えられる東大を目指すことにしました。理系の中だと工学部に一番興味

があったので、理科一類を志望しました。

今のところは情報系・AI関係の職に就ければいいなと思っています。AIはちゃんと制御すれば大きな力になるけれど、ぞんざいに扱っていたら逆に人間が支配されてしまう危険性もあるので、AIを適切に管理して、自分で使いこなせるようになります。

グノーブルとの出会い

**藤原**：高校1年生で大学受験を意識し始めた頃、一番仲の良かった友達がグノに通っていて、一緒に春期講習の英語と数学に参加してみました。講習の雰囲気も良く「楽しく学力を伸ばせそうだな」と思って、他の塾と比べることなくグノに入りました。他の塾に通う人たちは、すごい量の宿題をやっていて、僕には合わないと思いました。グノはそこまで宿題が多いわけではないですが、ちゃんと学力がつきます。

**広瀬**：中学受験の時、小学4年からグノに通っていました。勉強は苦手だけど「細かく理解したい」と思う私には、質問したいことがたくさんあり、先生方は、いつもそれに快く答えてくださっていました。少人数で面倒見が良く、「勉強を頑張りたい」と思わせてくれたグノは、大好きで思い入れのある塾です。

中学進学後は塾に通っていませんでしたが、「大学受験でもグノで頑張りたい」と高校2年生の最初に英語



おがわ そうすけ  
**小川 蒼介さん**  
順天堂大医・世田谷学園

でグノに入りました。大学受験でも中学受験の時と同じように先生方との距離が近くて、すごく嬉しかったです。

**辰己**：苦手な英語を強化できる塾を探していて、高2の10月に最寄り駅のためプラーザ校で体験授業を受けました。

大学受験グノーブルのことは、周りの友人が通っていたので前から知っていました。でも、自分は英語が苦手だという引け目もあって、なかなか一歩を踏み出せませんでした。授業を受けてみたら、想像以上に内容が深く、「ここでなら英語をちゃんと伸ばせそうだ」と確信できました。というより、「ここしかない！」くらいの気持ちでした。「授業の質がいい」と思ったのが入塾の決め手です。

**小川**：僕もたまプラーザ校で、中学2年生から数学を、高校2年生から英語を取りました。

グノは集団塾なので、周りからの刺激も受けられる一方で、先生と生

徒の距離が近く、勉強の質問や悩みの相談もしやすいです。そういう雰囲気の良さを中学受験グノーブルで知っていたので、大学受験もグノーブルを選びました。

僕は勉強が苦手で、グノでもよくクラスを上下していましたが、どのクラスでも先生と生徒の距離が近く、一人ひとりに行き届いた指導をしてくださりました。

グノーブルの英語

**小川**：演習は、自分の弱点を明確にする意識で取り組んでいました。自分では分かっているつもりになってしまっているところも、先生に添削してもらって発見できるのが良かったと思います。

英語は、まず長文を読み、授業の中で解説を聞いて、次の週はまた新しい文章をやるというふうに1回完結の授業なので、復習もしやすいです。音読を続けられたのも、そのサイクルのおかげだと思います。

**辰己**：僕が毎回、授業を受ける時に強く感じていたのは、授業内容そのものへの純粋な好奇心でした。

例えばグノの英語では、英文を題材に、背景にある文化や思想、時事的なテーマにまで踏み込んだ解説が展開されるため、自然と内容への関心が高まっていく、という感じで



たつみしょうた  
**辰己 翔太さん**  
東大理I・駒場東邦

。「英語学習」を目的化せず、「言語を通じた世界理解」という意義をもって進められていた点は、他にはないグノ独自の学習法といえるのではないのでしょうか。

**広瀬**：演習だけでは理解できないことも多かったのですが、解説の時はずべてを吸収できるように頑張っていました。常に「先生に当てられるかもしれない」という緊張感を持ちながら、脳を働かせられました。

**藤原**：僕は「1点でも高い点を取ってやろう」と思って授業中の添削問題に取り組んでいました。授業では毎回、先生が一方向的に話すのを聞くのではなく、生徒とのやりとりで進みます。僕は、当てられなくても、対話するような意識で臨んでいました。実際に、分からないことがあればすぐに聞ける距離の近さも良かったです。

**広瀬**：先生方は顔も名前も全部覚えてくださったので、質問もしやすかったです。

**辰己**：僕はシャイなので対面での質問はできませんでしたが、メールでの質問は本当にしやすかったです。

**小川**：僕は理科で他の予備校に通っていましたが、そこでは、授業が終わったら先生がすぐに職員室に帰ってしまいます。グノは最後まで先生が教室に残っているので、話しかけやすかったです。

英語を体になじませる

**藤原**：語順のまま理解するとか、音読とか、最初は「本当に効果があるのかな？」と思っていました。でも「一応やっておくか」という感じで続けていくと、受験直前の2月上旬になって本当に効果が出始めました。

読むスピードも理解するスピードも明らかに速くなり、筆者の言いた



ひろせ  
**広瀬 けやきさん**  
慶應義塾大文・頌栄女子学院

いことも分かるようになってきました。最初は一文ずつ「この関係代名詞がこれを指している」と考えながら読んでいましたが、音読を続けたことで、気づいた時には自然と前から英文を読めていました。

**広瀬**：GSL\*は、勉強で煮詰まった状態からのリフレッシュにも役立ちました。今のところ私は「大学2年生から英米文学専攻に進みたい」と考えていて、それはグノの授業を通して「英語は楽しい」と感じられたからです。

**辰己**：特に印象的だったのは、「語順通りに理解する」ことを重視した学習法です。返り読みをせずに音読を繰り返すことで、構造の把握と意味の理解が同時に進みました。

この方法は、英文を速く、かつ正確に読む力を着実に育てる上で非常に効果的でした。英語を「覚える」のではなく、言語として「なじませる」という意識が培われました。

グノのやり方は、読むスピードアップや、内容の理解にも役立ちます。おかげで、東京大学の問題も時間内に確実に解き終わるようになりました。

**小川**：語順のままの音読やGSLは速読力を養ってくれました。共通テストや順天堂大学の英語は、たくさんの英語を短い時間で読まなければい

\* Gnoble Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法（ワークアウト）も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

けません。そこでもグノで学んだことが、すごく役に立ちました。

### グノの英語をフルに活かす

**小川**：受験の英語はどうしても暗記しようとしてしまいがちですが、辰己君が言っていたように、グノでは体になじませるように英語を学びます。まだ英語を喋る機会はなく実感できていませんが、海外に行ったら、グノで学んだ英語力を発揮できると思います。

**辰己**：グノで学んでいるのは、単なる受験英語にとどまりません。海外の常識や、その根底にある考え方も教えてくれるので、海外の文化を理解するのに役立ちます。

**広瀬**：大学では英語の文章を読むことが多いと思います。グノの教材は海外の新聞や雑誌に掲載された文章を多く使っているの、そういうものを読む練習にもなると思います。

**藤原**：僕はもともと文章を読むことが好きではありませんでした。でも、グノの英語の授業を通じて、英語が読める楽しさを知り、そこから文章を読むことも「楽しい」と思えるようになりました。今後は、大学の論文も興味を持ちながら読めると思います。



ふじわら けいすけ  
藤原 圭佑さん  
東大理Ⅰ・麻布

### グノーブルの英語勉強法とその効果

**藤原**：サミングアップ\*は、当初提出するまで1週間かけて何回も何回もじっくり考えましたが、授業を重ねていくごとに、「ここが大事なポイントだな」というのが短い時間で分かるようになりました。

僕は高1からグノに入りましたが、最初はあまり真面目に音読をやっていませんでした。でも、高2の途中から、「絶対に1日10分はやろう」と決めて取り組んでいくと、模試などの成績も段々上がりました。リスニングもできるようになるし、リーディングも速くなります。共通テストも最初は時間内に間に合わなかったのが、最終的には15分ぐらい余るようになって、成長を実感しました。音読することで英語の音に慣れ親しんだのが大きいと思います。

**広瀬**：音読は長文の内容や文法を理解したあと、勉強の合間に少しずつ取り組みました。音読では生きた英語に触れられるので、英文を前から読んですんなり理解する力を養えます。今後英語を実際に使う時にも、音読で得た感覚が役立つと思います。

**辰己**：サミングアップでは、文章構造を正確に把握し、「メインの主張」と「サポート情報」とを区別する力が養われます。これは、段落ごとに要点を効率良く抽出するために不可欠な力で、長文問題への対応力の向上に直結しました。

一方、音読の継続は、英語の語順感覚を体に染み込ませる上で極めて有効でした。黙読ではどうしても返り読みの癖から抜け出せないのですが、音読を続けていくうちに語順で理解するリズムが身についてきて、読むこと自体がスムーズになりました。

**小川**：サミングアップでは、英語力だけでなく国語力もつきました。それまで英文に限らず現代文も、何も考えずにとりあえず前から読んでいました。でも、要約を意識し始めてから「この文章で筆者が伝えたいことは何だろうか？」ということを考えながら読むようになりました。物事の核心を捉える力を身につけられたと思っています。

先生がよくおっしゃっていたように、音読する時は、筆者になり切って読むことで、内容が頭に入ってきます。だから、スムーズに筆者と対話できるようになるためにも音読は有効だと思います。

### 「知」が凝縮された英語教材

**小川**：僕は毎週「次の授業はどういう文章が出るだろう？」と楽しみにしていました。興味を持てる教材だからこそ、復習も楽しく、背景にある文化まで考えるようになりました。

**辰己**：教材の内容はとにかく面白いです。メッセージ性があったり、最新の話題を取り入れたりして、勉強に取り組む上で本当に助かりました。それから、プリントが授業ごとに完結していたので、復習もしやすかったです。

**広瀬**：科学や異文化など、内容も様々で、文章を読む意義を感じられて楽しかったです。海外の新聞や雑誌が出典であることも多くてハイレベルなので、大学入試にも対応できるようになります。おろそかになりがちで、英作文も毎週添削していただけて、長文読解や文法など、英語をマスターするのに必要な教材がそろっていました。

**藤原**：グノの教材は入試の過去問という枠組みにとられない内容だったので、すごく良かったと思いま



す。人種や性別に関する問題など、入試でもよく見るテーマから、精神に関する難しい内容まで幅広く、楽しく読めました。

### 「グノーブルの英語」で変化したこと

**藤原**：読むスピードは圧倒的に速くなりました。一文ずつ理解するだけでなく、文の組み立てに関する筆者の意図も踏まえて「この主張をするために、この一文が挟まっているんだな」というふう理解できるようになりました。サミングアップを何回も復習した効果だと思います。

**広瀬**：私の学校は帰国生が多いのですが、私はレベル別の英語の授業で一番上のクラスになって、ハイレベルな授業を受けていました。それも、グノに通って英語力が上がっていったおかげです。

**辰己**：グノに入ったあとで、読むスピードが2倍ぐらい速くなった気がします。語順のまま頭に入ってくるので、余計なエネルギーを使わずに読み進められるし、試験本番でも落ち着いて、考えることに集中できるようになりました。

英語が苦手だった僕にとって、グノでの学びは、「英語アレルギーの克服」どころではありません。言語との関係そのものが変わる体験でした。

**小川**：僕はもともと英語がすごく苦手だったわけではありませんが、自

信を持って戦える教科ではありませんでした。グノに入って、何回も音読したり復習したりすることによって自信ができました。成績ももちろん伸びましたが、受験において自信はすごく大事です。

順天堂大学は英語が難しいことで有名なので、グノに通っていなかったら、胸を張って入試会場に行けなかったと思います。

### グノーブルの数学

**小川**：「テーマタグ」についてはよく聞かれます。グノの先生は、問題をテーマごとに分けてタグ付けするやり方を指導してくださって、それが、数学がすごく苦手な僕には役立ちました。

以前は、「数学が得意な人はどうやって問題を解いているんだろう？」というのが全然分かりませんでした。「テーマタグ」と、フローチャートで可視化して説明してもらったことで、数学が得意な人の考え方が分かりました。

**藤原**：数学はかなり得意なほうだと思いますが、自分が解けた問題にも、もっといい解法があることを学びました。自分が直感で選んだ解法ではなく、より良い解法に至るまでの頭の使い方を、フローチャートで整理してくれるのがすごく良かったです。

僕は間違いを分析するのが楽しくて、セルフチェックシート\*を長々と書いてしまうこともありましたが、それを、東大入試の数学の前の昼休みに見直して、「どういうところで間違いやすいのか？」を確認しました。直前に気をつけることを意識するのにセルフチェックシートはとても有効でした。

**小川**：僕は見直すというより書くこ

とに重点を置いてセルフチェックシートを使っていました。数学が苦手なので、目の前の問題に一生懸命なあまり、自分がどういう考え方をしていたか分からなくなってしまいうる時があります。

でも、セルフチェックシートのおかげで、一歩引いた視点から客観的に、自分が解いた問題や、その問題を作った人の意図を考えられたことが、自分にはすごく役に立ちました。

### グノーブルの国語

**広瀬**：高校3年生の時の私大国語の授業では、現代文と古文と漢文のすべてを履修できるので、その3つを良いバランスで学べます。

授業はすごく和気藹々としていて、毎週の授業が楽しみでした。古文の背景知識についての解説が特に楽しかったです。先生は普通の参考書では習えないような情報も生き生きと教えてくださり、すごく興味深い授業でした。



\* SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答案は担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

\* セルフチェックシート：高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。

先生と乗り越えたスランプ

小川：グノの先生は授業の前後もずっと教室にいてくれます。自分の悩みを誰に話せばいいのかわからない時、帰りの支度をしながら先生と話をしました。すぐそばに先生がいるという安心感は大きかったです。「グノの先生は名前を覚えてくれるのが早い」と言われますが、先生は名前だけでなく、生徒の志望校や、成績までちゃんと覚えてくれていて、すごく相談しやすかったです。

辰己：自信をなくしかけた時は、友達と話して元気になっていました。モチベーションをなくしかけていると思う時は、グノで扱った、好きな題材の英語の長文を読んで、気分をリフレッシュさせました。

グノは授業がテンポ良く進んでいくので、それに必死でついていこうとするうちに、模試の結果で落ち込んでいたことも忘れて、勉強に戻れました。グノの先生は本当にエネルギーで、僕はいつも元気ももらっていました。

広瀬：添削課題で悪い点数を取った時も、先生の温かいメッセージにいつも励まされ、「頑張りたい」と思えました。「模試の結果で落ち込んでダメ」とよくいわれますが、どうしても落ち込むことはあります。そういう時は、「やるしかない」と自分を奮い立たせていました。

藤原：数学は楽しく勉強を続けられましたが、英語はもともと好きではなかったのもあって、授業内演習で得点が振るわないと、モチベーションが低くなりました。そういう時も、答案に書かれた先生のコメントを見ると、気持ちが和んで、その後の授業を楽しく聞くことができました。

グノの先生は、授業がとても面白くて、話しやすい雰囲気がありました。例えば数学は雑談するような感じで対話のように感じている感じが僕は好きでした。

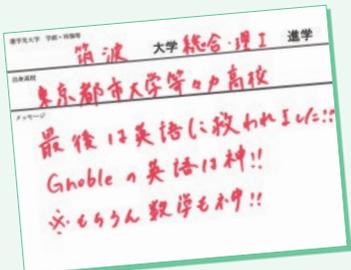
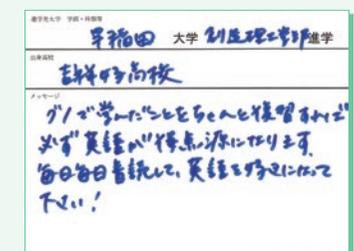
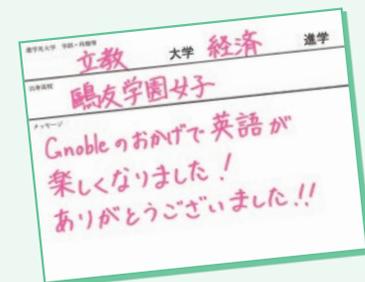
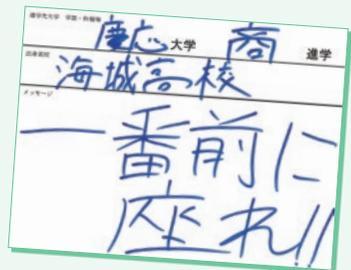
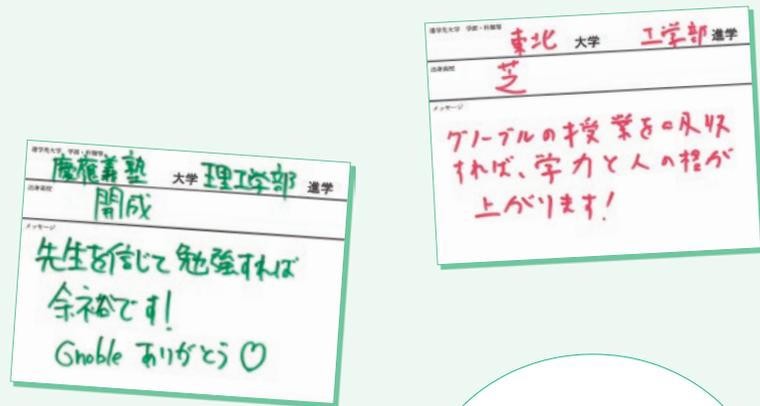
後輩へ伝えたいこと

藤原：学校に行けば、友達が他の塾ですごい量の課題をやっている話を聞くかもしれません。でも、グノの授業をちゃんと理解して、決められた復習をちゃんとやっていけば、基本的にどこでも合格できるくらいの力がつくと思います。自分を信じて頑張ってください。

広瀬：受験勉強できる時間は限られているので、正しい勉強の方法を探すことが大事だと思います。それから、目指している大学への愛を深めることも大事だと思います。温かい先生と素晴らしい教材を糧に目標に向かって頑張ってください。

辰己：英語は安定すると武器になるので、グノの先生を信じて頑張ってください。

小川：どんなに悪い成績を取っても、現役生は最後の最後、最後の3秒、2秒、1秒まで伸びるので、グノを信じて頑張ってください。



中学受験グノーブル 濱田先生 から小川くんへ

社会は好きだったようで、いつも笑顔で授業を受けていたのを覚えています。社会は覚えなれないといけなことが多く大変だと感じる人も多いのですが、毎回しっかりと復習して知識を身につけていたと感じました。知識事項は丁寧に復習することで誰でも身につけることができるのですが、一方で丁寧に復習し続けることは簡単ではなく、誰にでもできるというわけではありません。このようなことをしっかりとできていた小川くんの学習姿勢は他の人の手本にもなっていました。この時に身につけた学習習慣を中学生や高校生になっても維持できていたようで、頼もしく感じています。これからの活躍を期待しております。

中学受験グノーブル 永井先生 から広瀬さんへ

「探究心」、当時の広瀬さんへの一番強い印象です。中学受験グノーブルの通塾日において、広瀬さんが講師に質問をしなかった日はなかったのではないのでしょうか。正解の導き方を理解できて一部で腑に落ちないところがあると、何度でも食らいついてくれました。諦めない、粘り強く取り組む、一步を踏み出す、言葉にするのは簡単ですが、実行するのはそう簡単なことではありません。広瀬さんの姿勢には感服するばかりで、私自身の襟を正してくれるものでありました。合格、進学、おめでとうございます。今後のさらなる飛躍とご活躍を心より願っております。





(左から)  
おおしましんたろう  
**大島 信太郎さん**(信州大医・ID学園)  
くろだ みお  
**黒田 美桜さん**(東京科学大医・田園調布雙葉)  
かなや ゆうき  
**金谷 侑樹さん**(横浜市立大医・栄光学園)  
ほりこし ゆづき  
**堀越 結月さん**(東大文I・豊島岡女子学園)  
わかばやし かずき  
**若林 一樹さん**(東大文I・成城)

本文中敬称略

### 進学先を決めたきっかけ

**堀越**：東京大学では、1、2年次に教養学部で幅広く学べるのが魅力的だと思いました。

文一を選んだのは、法律系の仕事をしている両親の影響です。将来的には法曹関係に進みたいと思っています。

**若林**：東大の文一を志望した動機は大きく3点あります。

1点目は、前期課程の2年間で進路をじっくり考えられることです。

2点目は、僕の両親も法曹で「自分もその方向に進もうかな」と思っていたことです。

また、「しっかり勉強するなら、やはり最高峰の学校を目指したい」と思ったのが3点目の理由として大きいです。

**金谷**：中学生の頃に祖父が肺炎で亡くなりました。診療体制の事情もあって、ちょうど呼吸器科の専門医が不在の中での入院となり、祖父はまもなく息を引き取りました。呼吸器科で開業している叔父が葬儀の席で悔しそうに語っていた姿が、今でも心に残っています。



おおしましんたろう  
**大島 信太郎さん**  
信州大医・ID学園

ます。

この出来事をきっかけに、医療の地域格差や人手不足といった課題に目を向けるようになり、自分が将来医師としてできることを考えるようになりました。

医学の道に進んでいる従兄弟の影響もあり、医学部進学を決めました。将来は臨床医を目指しています。

**黒田**：新型コロナウイルスの影響で、今までどおりの日常生活が送れなくなった時、「自分には何もできなかった」という思いが強くなりました。そこから「未知の病気を研究して社会の役に立ちたい」と考えるようになり、医学部を志望しました。

もともと家庭の事情もあって、進学先は都心の国立大学に決めていたのですが、中でも東京科学大学は研究と臨床の両方を重視する方針が魅力的でした。

**大島**：僕が最初に医師という仕事を意識したのは、高校1年生で病気になり、全日制から通信制の高校に転校した時です。通信制の高校では、僕と同じように病気になったり、精神的に何かを抱えたりして、前の学校に通えなくなってしまった生徒とも多く出会いました。そういう状況にある生徒のサポートについて現在の医療にはまだ不足があると思い、医学部を目指すことにしました。

実は僕の両親も医師なのですが、自分が病気になるまで医学には本当に全く興味がなく、大学では経済を学びたいと思っていました。医療の仕事を意識するようになってからも、経済学へ

の興味を捨てきれず迷うことはありました。そこで、本を読んだり、いろいろな人に相談したりする中で「経済学は独学でやってみたら？」というアドバイスをもらい、最終的に医学部への進学を決めました。

### グノーブルとの出会い

**大島**：僕が英語を強化できる塾を探し始めたのは、高1の夏休みでした。いろいろな塾を自分自身でも探していましたが、グノのことは、父からの紹介で初めて知りました。

決め手になったのは「単語帳を使わずに、本当の実力がつく」というグノのメソッドです。中学時代、単語帳を一度も完遂したことがなかった僕にとって、それは非常に魅力に感じました。

**黒田**：中3の時、英語の成績が全然伸びなくて、姉の勧めで入塾しました。姉はすごく英語が得意で、大学でも英語の勉強を続けて資格試験なども受けています。私はその姿にすごく憧れていました。

グノに入った時は上位のクラスではなかったのがすごく悔しくて、「クラスが上がるまでは絶対に続けていこう」と思いました。授業では、文の構造などを理論的に教えてもらったので、楽しく通い続けることができました。

**金谷**：僕は中学1年の冬にグノに入りました。入塾時のクラス分けテストでは偏差値が30台で、本当に壊滅的と言っているほど英語ができない状態



かなや ゆうき  
**金谷 侑樹さん**  
横浜市立大医・栄光学園

した。グノを勧めてくれたのは、医学部に通う従兄弟です。冬期講習に行ってみたら、授業が楽しかったので、そのまま通うことを決めました。

他の塾に行っていた時期もありますが、詰め込みと先取りで、どんどん先に進んでしまうので熱中できず、英語力が上がったという実感も持てませんでした。また、周りの生徒も先生もあまり前向きでなく、自分もスイッチが入りませんでした。

**若林**：僕は中学受験で満足いく結果が得られなかったで、「中1の初めからちゃんと塾に通おう」と思い、親と相談しながらいろいろな塾を調べました。

東大受験を決心したのは高2の秋で、それまでは何となく「難関といわれる大学を目指したいな」くらいで、最初から「絶対東大に行くぞ」という気持ちではありませんでした。だから、初めから特定の大学を志向して6年間ガッツリやる塾は、自分の性格に合わないと思っていました。

また僕は小学校の時、算数が全然できなくて、数学偏重などところがある塾は「合わないかもしれない」と思っていました。グノは「英語が強い」というイメージが強いですが、実際はかなりニュートラルで、特定の大学や科目に偏らないところも魅力的だと思

した。スタートダッシュ\*1の数学を気に入って入塾し、中1の夏から英語も受け始めました。

**堀越**：高3の春期講習からグノに入りました。私は高1で、体調面から学校に行けなくなり、全科目が壊滅的な成績になりました。中3の頃からちょうどコロナ禍もあって、ほとんど1年間学校に行けなかった時期です。そこで「一念発起して頑張ってみようかな」と思って、東京大学を目指すことにしました。学校の勉強だけだと、「英語を読む量が足りないんじゃないか？」と不安もありました。

そこで、母親が友人から「英語が強い」と聞いてグノを勧めてくれたので、春期講習を受けました。入塾した時は一番基礎のクラスでした。でも、その後は着実に伸びて、一番上のクラスに行けました。

### グノーブルの英語

**堀越**：演習の教材が面白いので、「今回はどんな英文が出てくるのかな？」といつも楽しみでした。

グノの授業では1個1個の単語をすく掘り下げて、先生もすく生き生きと説明してくださるので、英文が立体感を持って感じられます。

復習する時も、先生の解説が頭の中で映像として蘇ってくるほど、授業が濃密で、英語力の伸びにつながりました。

**若林**：授業の内容が回をまたがず、1回ずつ完結してくれるのが良かったです。授業時間内に終わらなかった時に「残りは次回ね」「家で見てきてね」というやり方だと、内容を忘れてしまうのがもったいないです。

でも、グノは、延長しても最後まで解説してくれます。

僕は「金曜日はもう英語しかやらない日にしよう」と、1日英語漬けのつもりで授業に出席して、問題を解いて、解説を聞いて、全力を尽くしていました。そして、翌週の授業までに1回集中的に、前の週に扱った文章を復習する日を設けていました。

言い方を変えると、音読やリスニングはもちろん毎日やっていましたが、それ以外に英語の勉強で机に向かってるのは週に2回だけでした。

おかげで他の科目にもしっかり時間を取ることができました。「効率」という言葉はあまり好きではありませんが、無駄な時間をかけずに集中的に英語を勉強できて良かったと思っています。

**金谷**：対面授業は週に1回しか取ってなかったで、毎回「絶対に他の人より多くのことを吸収して帰るぞ」というつもりで臨んでいました。

僕は授業の内容を鮮明に覚えていられるわけではなかったで、あまり先生のほうは見ず、話の内容を自分で咀嚼してプリントに直接書いていました。授業が終わる頃には、プリントが文字や図で埋め尽くされていました。そういう状態で家に帰って、書いてあることを見ながら「そういう話があったな」と思い出していました。それを意識しながら音読をして、次の週の準備をしました。サミングアップ\*2は、GSL\*3を活用して「それ以外の英文も音読しよう」と決めていたので、授業中も「音読をするための準備をしよう」という意識で英文を読んでいたで。

僕は渋谷校で授業を受けていたで、学校が遠かったで、グノに着くまでに少し時間がかかっていました。だから、絶対に授業中に眠くならないように電車の中で仮眠していました。

\*1 スタートダッシュ講座：新中1対象の講座（2～3月に開講）。

\*2 SUMMING-UP LABORATORY：高3の英語（読解）で毎回実施される英文の要約演習。一人ひとりの答えは担当講師が添削・採点して返却。音声教材も完備。知的にレベルの高い「読解力」の土台を築けるばかりではなく、「聴解力」「作文力」「話す力」や「プレゼン力」も鍛えるグノーブル独自の仕組みです。

\*3 Gnable Sound Laboratory：中1から高3までの6学年すべてに毎週用意されているオリジナル英語音声教材。合理的練習法（ワークアウト）も確立されており、英語が得意なグノーブル生の土台を築いています。

**黒田**：私は土曜日に文法と読解の授業を連続で受けていました。すごく気合を入れて臨んでいま

した。授業内演習だけでなく、解説も、すごく集中していないと、置いていかれてしまう気がしていたからです。だから、眠くなることは一切なくきっちり勉強できたのが良かったです。

また先生は、単語の語源を説明する時、声や顔の表情も豊かに、体を使って表現するので興味が持てますし、そもそもグノで扱う英文の内容は面白いものばかりだったので、眠くなることは全然ありませんでした。

**大島**：比較的、授業時間が長くて、グノの授業は、めちゃめちゃ面白くて、すぐに時間が過ぎていきました。50分でも時間が長く感じる他の授業とは対照的でした。

長時間授業と聞いて入塾をためらう方もいるかもしれませんが、一度授業を受けてみると、グノの授業がいかに効果的で面白いかが分かると思います。

### 「グノーブル英語」の独自性

**大島**：僕はグノーブルのメソッドどおりに、サミングアップの教材だけでなく、他の教材も全部、毎回10回は音読するようにしていました。そうする



わかばやし かずき  
**若林 一樹さん**  
東大文I・成城

といつの間にか、英語を喋ることが気持ち良くなるし、学校の先生にも「めちゃめちゃ発音がいいね」と言われて、音読が大好きになりました。ネイティブの話し方を真似ていると、自分もその発音に近づいてくるのかなと思います。

**黒田**：語源から単語を理解するのが一番特徴的だと思います。学校ではみんなすごく分厚い単語帳を覚えていましたし、私は医学部志望で「医系の単語は難しい」とも聞いていたので、最初は不安がありました。でも、語源から単語を理解することで、見たことのない単語にも対応できたり、1つの単語に対する理解の幅が広がったりして、応用が利くようになりました。

音読は毎日寝る前にしていました。授業で理解が足りなかった部分は声に出している途中で詰まったり、分からなくなったりするので、重点的に復習するべきところとして意識できます。授業中はメモを取り、先生の言うことを何となく理解するだけで精一杯だったので、自宅での音読を通して、内容を自分の中に落とし込むようにしていました。

**金谷**：僕は語順のまま読むのが特徴だと思います。中学生からグノでやってきたおかげで、ずいぶん鍛えられました。高校3年生になると特に、授業でもその読み方が重視されるようになりますが、それ以前から自分は、語順のまま読むほうが読みやすいと思っていました。今考えると、やはり音読していたのが大きいと思います。

高校3年生からはサミングアップがありましたし、高1や高2の時も宿題用に音声教材が用意されています。中学生でも Sentences for Workout\* の短文をずっと読んでいたので、授業中にその文章が出てくると、出だしを聞いただけでどの文章が分かるようになりました。その頃には、日本語を介さ



ほりこし ゆづき  
**堀越 結月さん**  
東大文I・豊島岡女子学園

ずに英語のまま読めるという感覚が芽生えてきます。急に読み方が変わったわけではなく、多くの英文を読む中で、「語順のままのほうが楽じゃないかな」と思うようになりました。

**若林**：もともと単語帳が本当に苦手で、学校で配られた単語帳は、三日坊主どころか2日で飽きてしまうタイプでした。でも、グノーブルの授業では語源から解説してくださるので、「単語の顔つきが分かるようになる」という先生の言葉どおり、知らない単語を見ても、どういう意味を帯びているのかが分かるようになりました。

文脈の中で、辞書に載っている意味が当てはまらない時も、その単語が何を示しているか分かるという機会が非常に増えました。自分の周りの人たちは分厚い単語帳を使っていましたが、「僕のほうが単語をいっぱい分かっている」と内心思っていました。

GSLについては、朝の通学電車で聞くことをルーティンにして、聞きながら心の中でも発声していました。「就寝前にも音読を絶対にやろう」と決めて、声が枯れるまで音読してから寝ていました。GSLと音読を通して、本当にノータイムで頭の中に文章が浮かんでくるようになりました。英文を読めば、脳内にサラサラとすぐに内容が入ってきます。東大の英語は分量が多くて、初めて解いた時は全然解き切れませんでした。でも、本番では

ちょっと時間が余るくらいの速度で読むことができました。

**堀越**：文章の中で出てきた単語から、語源つながりでいろいろな単語を覚えられるのが良かったです。単語帳も一応やってみましたが、あまり続きませんでした。また、単語帳で覚えた意味を当てはめるだけでは文章を読む力にはなりません。でも、音読をして、「あの文脈の中で出てきた言葉だな」と思い出せると、日本語にとらわれない読み方ができます。語源と文脈の両面から単語の意味を考えられるようになりました。

授業を受けているだけで、単語帳を何周もするよりずっと多くの単語をカバーできるようになります。たまに単語帳を開いてみても、「グノでやった単語だな」ということが多くて、そうでない単語はそもそも文章中でも見かけません。まれに過去問や演習の中で出てきても、単語帳に載っている訳ではしっかりこないこともありました。単語帳なしでも、過去問に十分対応できました。逆に、単語帳をやると、日本語の意味にとらわれて引っかかってしまうこともありました。

**若林**：グノの英語勉強法は、東大の受験を超えて広がりがあります。実際に過去問をやってみても、対応力がついていくことは実感できました。それに、例えばCNNのニュース記事には、知らない単語がいっぱい出てきますが、そこでまず、自分で意味を推測してから答え合わせのような感じで調べると、「大体合っていたな」とか「これはこんな語根で成り立っているんだな」とかが分かります。単語帳の丸暗記をしなくても、自分が触れた英文の中で知らなかった単語を調べたり、授業で教わった単語を覚えたり、それを繰り返していけば、大丈夫でした。

ただ単に英語の授業を受けていたというよりは、「教養や勉強への心構えなどを英語で教えていただいた」というほうが適切だと思います。

**金谷**：中3の終わりに、自分が慕って

いた先生から、先輩がつくったという「単語の相関図」のようなものを見せてもらいました。語源が真ん中であって、そこからいろんな単語が派生していく様子が図解されたものです。単語帳の必要性を考える前に、単語を語源から考えることを教わったので、グノの方針にもあまり違和感はありませんでした。

### 「知」が凝縮された英語教材

**大島**：毎週、教材が配られるので、その週にやる量がきちんと決まっています。復習もしやすかったです。教材の中身も、いわゆる英語の勉強という感じではなく、教養や人生観などが身につくものが多く、興味深かったです。授業をしてくれる先生の愛も感じられました。

**黒田**：私は文章を読むことが好きなので、最初に教材を全部配られると、気になって先に読んでしまうと思います。でも毎回配る形式だと、授業が楽しみな気持ちも募ります。内容が深いのももちろんですが、先生が時期ごとに私たちに合うテーマを選んでくれた気がします。

受験の直前だと、緊張しない方法やメタコグニションなど、他の科目の問題を解くのに役立つことや、入試全般に役立つことも教えていただきました。私自身、すごく緊張するので、本番は教材から得た知識に助けられました。実験や論証についても書かれていて、「自分もやってみよう」と思えて良かったです。

**金谷**：教材の出典を見てみると、最近出たばかりの文章やホットなニュースもあって、新鮮でした。それから、毎回小分けになっていることで、教材を持ち運びやすいのはありがたかったです。グノの入塾説明会では、スパイラル学習といって、同じことを繰り返しながら身につけていく学習法についても話がありました。新しい文章でも、何回も同じような文法などが出てくる

ので、そういうところで繰り返しできたのはすごく良かったと思います。

**若林**：自然科学から哲学まで、本当に文理を問わない題材があって、毎回「次はどんな文章が出るんだろう？」と楽しみでした。

僕は写真が好きで、ロバート・キャパという有名な写真家の文章が出てきた時は嬉しかったです。他にも、エリザベス・キューブラー＝ロスという精神科医の「死の受容のプロセス」に関する文章は、精神医療という自分の知らない分野の話でしたが、「すごく面白い」と思いました。

純粋数学についての話題がサミングアップにあった時は、本当にひどい点数で、頭が痛くなりました。こういう日本語でも読む機会の少ない話題の文章を通して、いろいろな分野に興味を持つきっかけを与えてくださったと感じています。

**堀越**：授業で扱う英文のテーマは文理を問わず幅広いのですが、全体を通して見るととてもバランスが取れています。特定の分野に偏重することがないので、世界が広がります。また、1回1回新鮮な題材の英文を読むことで、対応力も身につきます。自分の全然知らない題材に出くわしても、動揺しないで「知識を増やそう」という気持ちで英文と向き合うことができました。

先生もおっしゃっていましたが、東大の英文は前提となる基礎知識も必要とされます。それがないと、サミ



くらだ みさき  
**黒田 美桜さん**  
東京科学大医・田園調布雙葉

\* Sentences for Workout：グノーブルの文法解説で扱う、文法のエッセンスを凝縮した例文集。音声教材も完備されており、何度も聞いて音読し、暗唱できるくらいに親しんでいるうちに、英文法が体に染み込む。

ングアップでも全然いい点数を取れませんが、グノの英語の題材の幅広さと、読む量の多さが知識を補ってくれていたと思います。

### 「グノーブルの英語」で 変化したこと

**堀越:** 英語がスッと頭に入ってくるようになりました。語順のまま理解することで、英語を英語のまま読んだり、聞いたりできるようになり、速読力がつき、問題を解くペースも上がりました。

また、音読も毎日続けていたら、段々モチベーションが上がりました。授業で先生がおっしゃっていたことを音読の中で思い出せるのが楽しく、英語に全然、苦手意識を持たずにすみました。

**若林:** 中1で英語を学び始めた頃は、「文法をしっかりとやって、単語を暗記するもの」というイメージがありました。でも、文法や単語の習得は、入試を突破するための最初の段階でしかありません。このことがグノの授業でよく分かりました。先生も「語彙と文法は当然で、思考力と背景知識、耳と口で体を慣らすことが揃っていないと、英語力は身につかないよ」とおっしゃっていました。GSLと音読を通して耳と口を慣らしていくのは、本当に自分の英語力の向上につながった



思います。

中学生の時はあまり英語ができないほうでしたが、最終的には「英語は点数を取って当たり前」と思えるまでにりました。

おかげで入試の時も「苦手な数学をどう補強しようかな?」「社会はどれくらい伸ばせるかな?」という発想で対策を考えられました。英語に時間を取られすぎず、バランス良く受験勉強ができるまでに成長できたので、そこが一番ありがたかったです。

**金谷:** “グノ以前”は「英語ができなかった」という記憶しかありませんが、“グノ以後”は大学受験以外にも通用する英語力を手に入れられた感覚があります。

学校には「大学受験の模試ならできるけれど、資格試験は全然できない」と言っている人もいました。僕は、音読を通して、口を慣らして、耳を慣らして、英語と友達になる感覚で向き合っていたのが奏功して、英語力が飛躍的に伸びたと思っています。そういう中で、大学で4月の初めに受ける英語のテスト対策をしたら難なくクリアできました。

**黒田:** 前と比べて、意識しなくても英文が読めるようになったと思います。最初は「どこに主語があって、どこに動詞がある?」などを理解するのに必死でした。

でも、グノでやっていくうちに、文章に書かれていない背景や、「ここでこういうふうにはどうしてだろう?」という部分にまで考えが及ぶようになったのを感じます。英語が得意になったので、「他の科目で取れば大丈夫だろう」という気持ちにもりました。

**大島:** グノに入るまでは、英語を学ぶモチベーションが「学校の定期テストでいい点を取りたい」「大学の入試に合格したい」でした。

でもグノに入ってから、純粋に英語が好きになりました。教養が身につく教材をいろいろ解いていくうちに、いつの間にか考え方が変わり、受験や学校のテストに対して気負いがなくなりました。

今は英語を、「海外の人とコミュニケーションを取るため」「知識を自分のものにするため」に使うものだと考えています。僕の中で英語という科目に対しての捉え方が完全に変わったと思います。

### グノーブルの数学

**堀越:** 数学の授業では、毎回予習した内容をセルフチェックシート\*に書き込み、分からないところやどうやって解いたかを整理します。先生は、授業でそれを見つつ解説してくださいませ。少人数とはいえ集団授業なのに、自分を含め一人ひとりをちゃんと見てくださっている感じがして、内容が頭に入ってきやすかったです。独特の言葉でポイントを示してくださるのも、内容を理解する上ですごく助けになりました。

「データファイル」を使って、解き直し、ポイントを書き込んでいく復習の仕方も教わりました。そのとおりにやっていくと、自分のできることがどんどん積み重なっていきます。解いて終わりではなく、問題のポイントが理解できるので、数学の力を総合的に伸ばすことができました。

**若林:** 僕は数学があまりできなくて、問題を見てパッと解法が浮かぶほどの修練が積めていませんでした。だから、授業の最初に配っていただいた、指針を言葉で説明してあるプリントが役立ちました。問題ごとにその類型を判断し、順を追って「この解法はどうかな?」と検討しながら解いていきます。多少時間をかけてでも1個1個の

方針を漏れなく検討していくやり方は、僕にとってすごく重要でした。

模試や入試本番で、初見の問題を見ると焦りますが、一回落ち着いて「これでダメなら、次はこれにしてみよう」と判断する訓練にもりました。

僕は答案をダラダラダラダラ書く癖があります。でも、解答スペースには限りがあるので、その範囲でまとめ切る訓練としても、セルフチェックシートが役立ちました。セルフチェックシートは、提出するものなので、要点をまとめた上で「何をアピールするか?」を考えなければなりません。「ここまでは分かっていますよ」「ここからは分からないけれど、こうなんじゃないかと思いました」というのを書くプロセスは、本番で答案をつくる訓練になったと思います。

例えば、途中で分からなくなった問題も、どこでつまづいたかを書いておくと、先生があとで、その内容を踏まえた解説をしてくれます。その時に個人の名前は出さないけれど、「多分僕のためにここを解説してくださっているんだらうな」と思うことはよくありました。

**堀越:** 私セルフチェックシートに結構書き込みました。最低限のことだけ書くこともできたとは思いますが、私は「すごく分かった」「途中までは分かった」「全く分からない」という3段階で書きました。分かった時は、途中式は省略して、答えと考え方の要点だけ書きます。途中で止まったり、ちょっと不明瞭なところがあったりしたら、その点をしっかり書いておくと、先生がちゃんと答えてくださ



いました。

### グノーブルの国語

**若林:** 僕は東大国語を取っていました。英語や数学よりも少人数のクラスで、他の科目以上に先生と生徒の距離が近かったです。例えば、古文単語はイメージが浮かばないと、訳を見てもどういう場面なのかが分からないことがあります。そういう時は手を挙げて質問すると、先生がすぐに答えてくださいました。

古文や漢文の世界は時代や場所も、自分が今おかれている状況とはかなり隔たりがありますが、先生が身振り手振りを交えて教えてくださったおかげで、場面をイメージする力がつきました。

先生は解答例を示す時も、まず黒板に下書きをして、そこから「これは余計だね」「これは言い換えたほうがいいね」というふうに、推敲の作業を実演してくださいました。整えられた模範解答だけを見ても、「こんなきれいな解答をすぐに書けない」と思うので、途中経過を見られたのがすごく良かったです。生徒が自分の答案を見せながら「こういう表現でも点数がもらえますか?」という確認をすると、「そこは同じ意味だからいいよ」「それだとちょっと誤解されちゃうよ」というやりとりもできました。答案をつくる力を重視した授業でした。

**金谷:** 授業の最後に解いて提出する「お帰り問題」は、1週間の間に先生がしっかり丁寧に添削をしてくれて、次の週にその解説があります。板書もきれいで、チョークの色ごとに「この色は助動詞で敬語」のような使い分けがされているのが分かりやすかったです。

古文単語は英単語のように覚えるのは難しかったので、単語帳をつくりました。先生も、語源や現代語とも絡め、絵も描いて、イメージしやすい覚え方を教えてくれました。それか

ら、先生が教室で加持祈禱を熱演してくれたことはよく覚えています。自分は資料を読んで覚えるのが苦手だったので、そうやって古典知識を印象づけて教えてくれるのはありがたかったです。

### スランプを乗り越える方法

**大島:** 人生の中で一番モチベーションが落ちたのは、病気になって転校せざるを得なくなった時です。ちょうどその頃にグノに通い始め、英語の授業がすごく楽しかったので、体がつらい時でも「ちょっと無理してでも通おうかな」と思えました。そういう意味で、グノにはすごく助けられたと思います。グノに入ってからモチベーションや成績が落ちたことは、あまりありません。

**黒田:** 私はもともと英語に自信がありました。でも、去年の夏、推薦の小論文で英文がズラッと出る問題を解いてみて、全然時間が足りないし、単語が難しく、置いていかれてしまいました。それですごく不安になって、先生に相談しました。「グノを信じれば大丈夫」という説得力のあるお返事をもらって、そのとおりに頑張っていたら、時間に余裕を持って読めるようになりました。夏以降も成績が伸びて、「信じて良かったな」と思っています。

**金谷:** 僕は高3の夏まで部活をやっていたのもあって、「この志望校のために頑張るぞ」という気持ちはなく、普段どおりの勉強を続けていました。9月に部活がなくなってからは勉強一

\* セルフチェックシート:高2文系数学、高3数学で生徒自身が宿題終了後に記入するシート。解けた問題には「どう解いたか」、解けなかった問題には「何ができなかったか」などを記入。自分の傾向や理解度を分析して客観視し、次のステップへとつなげるグノーブル独自のツール。

色になり、11月末にある別の学校の推薦試験に向けた勉強を始めた。「このままじゃヤバイ」という焦りが出てきました。自然とモチベーションや自信がなくなりましたが、大学生の従兄弟から医学部の話を聞いたり、開業医の叔父の病院に行ったりして、大学生活や将来の姿を想像して、自分を奮い立たせました。

それから、僕はディズニーが好きなので「受験が終わったら絶対ディズニーに行こう」と決めて、イベントなどの写真を見たりして気晴らしをしました。

**若林:** 勉強のモチベーションが顕著に落ちたことはありませんが、人間関係などの些細なことで落ち込んでしまうタイプだったので、自暴自棄になることはほぼ毎日でした。

中1からグノに通っていたのに、「ここで諦めてしまったら、今までの自分に申し訳ないじゃないか」と、どうにか奮い立たせていました。過去の自分が支えでした。

英語や国語の授業では添削をさせていただきませんが返却してもらう時に、「若林君、すごくいい文章を書くね」と言ってくれたりするのが素直に嬉しかったです。モチベーションも上がりました。逆に、サミングアップでは必ずしも良い点が返ってくるわけではなく、めちゃくちゃ悔しい思いをしたこともありました。でも、それも次に頑張るためのモチベーションになっていました。

**堀越:** 英語の読解力はどんどん上がっていましたが、読むスピードはなかなか上がりませんでした。東京大学の英語はすごく分量が多いので、とても時間内に終わる気がせず、何回も自信をなくしました。そのたびに先生が「速度はあとから上がっていくものだから、初めは英語を前からどんどん読めるようになっていくことが重要だ」

と励ましてくださったのは力になりました。

モチベーションが下がるというか、あまりやる気が起きないこともありましたが、授業は毎週面白くて、楽しくなくなることはありませんでした。音読も、毎日やると決めて続けていけば、力がついてきたことが成績にも表れていたもので、それが励みになりました。

### グノーブルの先生

**堀越:** グノーブルの先生方はすごく質問対応が丁寧でした。私は質問が多くて、例えば当初英語は、1回の授業で何十個もの疑問が出てきて、復習している間にもどんどん疑問が増えていきました。授業は週に1度ですが、先生はメールですべての質問に丁寧に対応してくださいました。「何が分からないのか?」「どこまで分かっているのか?」「自分の考えがどこまで正しいのか?」をその都度聞いても、先生方はいつも丁寧に答えてくださいました。

最初の数か月は本当にたくさんの質問をしていましたが、英語力が段々上がるにつれて、疑問に感じることも減り、そこで自分の成長を実感することもできました。

数学の先生もすごく丁寧に質問に答えてくださいます。メールだと少し難しい部分は口頭で対応してくださいました。勉強の進め方を相談した時もすごく親身にに応じてくださったので、モチベーションの維持にもつながりました。

**若林:** グノは先生と生徒の間の距離感がすごくちょうど良いです。過度な干渉は絶対にありません。先生と生徒が仲のいい塾では、必要以上のなれ合いが生じがちです。グノにはそれがないので、すごく居心地が良かったです。

授業中も個々の状況に合わせた解説をしてくださいましたし、質問しても

丁寧に教えてくださったりしたので、表には出てこないけれど先生の愛やつながりを感じました。

**金谷:** 少人数だからこそ、先生との距離は近いと思います。中2、中3でお世話になった先生とは、本当に仲良くさせてもらいました。質問にいけば丁寧に対応してくれますが、だからといってプライベートに踏み込んでくることはなく、適切な距離感でした。授業も毎週楽しみで、グノの授業をモチベーションにしていました。

高1、高2に習った先生は、最初に1回だけ振替授業でお会いした時のことまで覚えてくれていて、「本当にどの先生も、生徒のことをよく考えてくれているな」と改めて実感しました。一度、大きな怪我をして、松葉杖を使いながら通っていた時も先生が気にかけてくれました。

中には、すごい熱量で授業をしてくれる先生もいて、こちらもすごくやる気が出ました。他の先生に比べるとかなりハイスピードで、ついていくのが大変でしたが、その分、吸収できることも多かったです。どの先生も「生徒のためになる授業をしてくれて信頼できる」とすごく感じました。

**黒田:** 先生全員が生徒をよく見ていて、授業に一生懸命という印象がありました。振替でいつもと違う先生の授業を受けることになっても、安心感がありました。

とにかくパワフルな先生の授業では、最初は本当に緊張して全然反応できませんでした。先生が雑談みたいにおっしゃっていることでも、実は教材の内容に関する重要なことだったりし



て、全く無駄がありません。

**大島:** グノの先生方は、すごく教え方が上手です。高1の時に若い先生に教えていただいた時、内心は「経験豊富な先生に比べると劣るんじゃないか」と思っていたのですが、すごく分かりやすい授業だったのでびっくりしました。やはりグノの教え方は質が保証されていると思いました。

一番印象に残っているのは、高3の時の先生です。グノ英語の真骨頂というか、グノの教育のあり方を体現している先生です。僕は毎回一番前の席で授業を受けていたので、先生が本気で「生徒の英語力を伸ばそう」と思っているのがすごく伝わってきました。先生は熱意がすごく、板書も毎回思い切り書きます。だから、授業が終わる頃には、一番前の席に座っていた僕の黒いカバンがチョークの粉で真っ白になっていました。グノは本当にいい先生ばかりです。

### 後輩へ伝えたいこと

**大島:** グノーブルの英語のやり方は絶対に間違っていないので、とにかく先生方に言われたことをひたすらやればきっと合格できます。

**黒田:** 受験期は不安なことも多いですが、グノと先生方を信じてやっていけば、最後の最後まで実力は伸びると思います。授業と復習を頑張ってください。

**金谷:** 自分はグノの授業と音読で英語力が伸びたと思っています。グノの授業は絶対にサボらず、そして、絶対に

毎日音読するのが、英語力をつける一番の近道なので、それはぜひやってほしいです。

入試本番のメンタルに関してアドバイスします。僕は共通テストがあまり振るわなくて、圧倒的なビハインドを取っている状態でした。共通テストの国語、特に現代文が全然できませんでした。一方で「英・数・物・化は実力がもう十分にある」と思って、直前期はやることのないくらいでした。そういう自信をつけて、足切りさえ回避できれば、誰でも合格できるチャンスがあります。「ビハインドを取っているから」などと、くよくよせずに、「絶対逆転してやるんだ」と思えるくらいに、英語などの二次試験に使う科目は鍛えてください。そうすれば自信にもつながります。

**若林:** グノの授業はスピードも速いですし、教材の難易度も高いですが、その分、質もすごく高いと思います。だから、ちょっとついていけなくて心が折れそうになることがあっても「絶対についていくぞ」「次はいい点数を取るぞ」と思って取り組んでいけば、絶対にいい結果がついてきます。諦めないでほしいです。

それから、僕のように、学校でグノが少数派で、全然知り合いがいないという人も多いと思います。でも、毎回授業を受けていけば、絶対に見放されることはないで、孤独かもしれないけれど、先生を信じて頑張ってください。先生は僕たちが思っているよりも生徒のことを見てくださっています。**堀越:** たまにガツと集中的に勉強することも大事ですが、毎日コツコツ音読などを積み重ねていくことが、結局本番での対応力や実力に一番つながります。焦らず毎日やっていくことが大切です。

そのためには、毎回の授業を大切にしてください。理解が不十分なまま復習をしても身につかないし、不安になるだけです。どんどん先生に質問して

疑問をなくすことで、実力がつき、段々質問も少なくなっていくと思います。質問を無理にひねり出す必要はありませんが、自分なりに「このテキストは完璧だ」と思えるくらいの復習をコツコツ続けていくと、絶対に力がつくと思います。

# 受験報告日に いただいた メッセージ

東京 大学 文科一類 進学  
 学習院女子高等学校  
 国語の授業が本当に  
楽しかったです!!

慶應義塾 大学 薬学部薬学科 進学  
 湘南白百合学園高等学校  
 人として成長させてくれる  
塾です!! Gノで勉強  
できて良かったです!

早稲田 大学 創成理工 進学  
 筑波大学附属駒場高校  
 自分と向き合え、  
楽しい受験生活です!

順天堂 大学 医学部 進学  
 女子学院  
 Gノ最高!! 😊  
ありがとうございました!

東京 大学 文芸 進学  
 麻布  
 お世話になりました!!!  
臥薪嘗胆!!!

慶應義塾 大学 法学部政治学 進学  
 新茶の水女子大学附属高校  
 Gnobleに通えて良かったです!

早稲田 大学 法学部 進学  
 栄光学園  
 成績が伸びた人もおめでとう  
予てが人ばれ!!

一橋 大学 社会 進学  
 海城高校  
 音読  
最高!!

国際基督教 大学 進学  
 清泉女子大学附属高等学校  
 楽しいし、実力も確実に  
つけてくれる 最高の塾  
でした!!

京都 大学 経済学部 進学  
 豊和村学園高等学校  
 自分が信じた道は、  
Gnobleの先生も信じて!

帝京 大学 医学部 進学  
 日本女子大学附属高等学校  
 Gnoble 最高  
 6年間ありがとうございました!!

一橋 大学 ソフトウェア工学 進学  
 麻布高校  
 Gノが最高!  
教員が深い

京都 大学 経済学 進学  
 武蔵高等学校中学校  
 楽しく  
受験勉強を!!

東京 大学 理科一類 進学  
 開成高校  
 11ヶ月が  
一番だいじ!!!

慶應義塾 大学 工学部 進学  
 日本女子大学附属高校  
 Gnoble 最高!  
英語と数学が得意に  
なりました!

東京 大学 理工I類 進学  
 開成  
 EGGsからでも  
東大余裕!!  
Gノ最強!!!

慶應 大学 薬学部薬学 進学  
 領栄女子学院高校  
 Gnobleのおかげで英語が大好きに  
なりました。また、小論文も得意  
になり、自信を持って受験できたので、  
非常にありがとうございました!!

早稲田 大学 基幹理工 進学  
 学習院高等科  
 英語が得意な  
理系に就ける!

一橋 大学 社会学部 進学  
 筑波大学附属駒場  
 Gノの普遍的な  
メソッドが活きた!!

早稲田 大学 政経・経済 進学  
 早稲田高校  
 Gnoble  
知ってる!!

一橋 大学 商学 進学  
 開成  
 ガチで  
音読しろ!  
T.T. 永遠に

京都 大学 薬学部 進学  
 駒場東邦  
 この塾が心で好きです。

上智 大学 法学部 進学  
 白百合学園高等学校  
 Gノのおかげで  
合格できました!  
本当にありがとうございました!

東京科学 大学 生命理工 進学  
 雙葉高校  
 Gノ数学(特法)が  
大役を果たした。

明治 大学 農学部農学 進学  
 東京女子大学附属高校  
 最後、英語が助けてくれた。

法政大学 大学 医学部医学科 進学  
 女子学院  
 Gノのおかげで英語が大好きに  
なりました!  
ありがとうございました♡

京都 大学 医学部 進学  
 筑波大学附属駒場  
 楽しかった!!  
ありがとう

東京科学 大学 理学院 進学  
 社会武蔵高校  
 Gノは英語だけでなく  
数学も理科も最高だよ!!

東京 大学 理工I類 進学  
 攻玉社  
 様。各教科で表面的な理解に  
留まる学習を促してくれました。  
Gnobleのおかげで今の自分になりました。  
ありがとうございました!

慶應義塾 大学 理工B 進学  
 文  
 Gノに通えて  
良かったです!

慶應義塾 大学 文学部 進学  
 日本女子大学附属  
 温かい指導  
ありがとうございました。

東京 大学 文科II類 進学  
 麻布  
 最後しか残される日  
迎えた自分自身を  
Believe in yourself!

慶應義塾 大学 経済学部 進学  
 駒場東邦高校  
 Gノについていけば、  
間違いないことあります!  
英語を乗り越えてこの上ない環境  
でした!!  
Gnoble最高!

早稲田 大学 法学部 進学  
 芝高校  
 Gノの授業のおかげで、  
英語が得意になりました。  
音読大事!

一橋 大学 法学部 進学  
 東洋英和学院  
 Gノグローバルレベル  
受験を乗り越えて、  
がんばって!!

早稲田 大学 人間科学部 進学  
 吉祥女子高校  
 あさらのバニー!! ツブツブ!!

一橋 大学 法学部 進学  
 女子学院高校  
 Gnobleのおかげで  
英語が大好きになりました!!  
先生方に感謝!!

帝京 大学 医学部 進学  
 共立女子高校  
 Gnoble  
LOVE!

東京外国語 大学 言語文化学部  
 攻玉社高校  
 要約を本気で!!  
粘り強く!!

京都 大学 総合人間学 進学  
 女子学院  
 面白くて分かりやすい授業でした!

星薬科 大学 薬学部 進学  
 聖心女子学院  
 先生思いの丁寧な授業が  
いいですね。  
ありがとうございました!

慈恵会医科大学 大学 医学部医学科 進学  
 東大東大一系  
 楽しい授業や先生のおかげ  
楽しかったです。  
深い理解のおかげです!

東京 大学 理科一類 進学  
 白百合学園  
 先生にたくさん助けられ  
ました! 楽しかったです  
ありがとうございました!

東京 大学 理科二類 進学  
 雙葉  
 全科目Gノで  
楽しめました!

東京 大学 理科二類 進学  
 雙葉  
 楽しんで授業を受けました。

慶應 大学 商学部 進学  
 早稲田高校  
 英語といえば  
Gnoble!!

早稲田 大学 国際学 進学  
 白百合学園高等学校  
 Gノ信者になろう!  
知の力を生かそうに!

慶應義塾 大学 理工B 進学  
 文  
 Gノに通えて  
良かったです!

慶應義塾 大学 薬学部薬学科 進学  
 大妻高校  
 Gノは英語だけでなく他科目の授業  
も素晴らしい!!  
本当にありがとうございました!

慶應義塾 大学 理工学部理工 進学  
 女子学院  
 楽しいお世話をしました!  
Gnoble 大役です!!

早稲田 大学 文学部 進学  
 女子学院高校  
 最高に幸せな受験でした  
ありがとう!!

一橋 大学 経済 進学  
 麻布  
 Gノが  
お世話になりました!!  
日進月歩!!!

東京女子医科大学 大学 医学部 進学  
 日本女子大学附属高等学校  
 本当にありがとうございました。  
Gnobleに通って  
よかったです!!!

日本 大学 獣医 進学  
 がえつ有明  
 数学が得意になり、英語もスラスラ  
読めるようになったよ!

早稲田 大学 理工学部 進学  
 暁星  
 Gノの授業のおかげで、  
質、添削の対応もとても親切で、  
先生の英語力も素晴らしいです。

一橋 大学 経済学 進学  
 麻布高校  
 Gnobleのおかげで愛が溢れました!  
Gnoble 最高!

明治 大学 国際日本 進学  
 大妻高校  
 Gnobleのおかげで、  
勉強が楽しくなりました。  
最後まで頑張りました!!!

東京医科 大学 医学部医学科 進学  
 芝高校  
 Gnobleが最強じゃ  
ないですか?

東京都立 大学 法学部 進学  
 領栄女子学院高等学校  
 唯一、眠くならない  
授業でした!  
楽しかったです!!

慶應義塾 大学 文学部 進学  
 雙葉高校  
 Gノは先生方がとても親身に  
教えてくれたので、  
英語の成績も伸びましたよ!

早稲田 大学 先進理工 進学  
 世田谷学園  
 keep going!!

一橋 大学 経済 進学  
 麻布  
 グローバル一筋

受験報告日  
 (2025年3月)の  
 記録から  
 編集者が任意に  
 選んだものです。

